

令和2年度
香 川 県
歯の健康と医療費に関する実態調査
報告書

令和3年3月

香川県
公益社団法人 香川県歯科医師会

共同研究 監修：香川大学教授 真鍋芳樹
協力 香川県国民健康保険団体連合会
香川県後期高齢者医療広域連合

目 次

I	平成24,25,26年度歯科実態調査時点で80歳の者の8020達成状況別医療費、 3年後の介護サービス受給状況および調査後3年間の生命予後	1
1	調査の概要	1
	分析対象者および分析方法	1
2	調査・分析結果	1
	(1) 8020達成状況	1
	(2) 医科・歯科診療費、調剤費(一人あたり1年間、円)状況	2
	(3) 3年後の介護サービス受給状況	3
	(4) 3年間の死亡状況	4
	まとめ・考察	5
II	平成30年度特定健診受診者の歯科問診項目回答別インフルエンザ有病率 及び肺炎有病率	7
1	調査の概要	7
	分析対象者および分析方法	7
2	調査・分析結果	8
	(1) 質問1「あなたの歯の本数は20本以上ありますか」と インフルエンザ、肺炎の有病率	8
	(2) 質問2「歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることがある」と インフルエンザ、肺炎の有病率	10
	(3) 質問3「歯ぐきが腫れることがある」とインフルエンザ、肺炎の有病率	12
	(4) 質問4「歯がぐらぐらする」とインフルエンザ、肺炎の有病率	14
	(5) 質問5「デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間も きれいにしている」とインフルエンザ、肺炎の有病率	16
	(6) 質問6「フッ素入り歯みがき剤を使っている」とインフルエンザ、肺炎の有病率	18
	(7) 質問7「定期的(年に1回以上)に歯の検診や予防のために 歯科医院を受診している」とインフルエンザ、肺炎の有病率	20
	まとめ・考察	22
III	平成30年度特定健診質問項目「食事をかんで食べるときの状態はどれに あてはまりますか」の回答状況別医療費及び他の項目との関連	25
1	調査の概要	25
	分析対象者および分析方法	25
2	調査・分析結果	26
	(1) 性別年齢階級別「標_Q13」の回答状況	26
	(2) 性別年齢階級別「標_Q13」回答別一人あたり1年間あたり診療日数(日)、医療費(円)	27
	(3) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q1」の回答状況	30
	(4) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q2」の回答状況	32
	(5) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q3」の回答状況	34
	(6) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q4」の回答状況	36
	(7) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q5」の回答状況	38
	(8) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q6」の回答状況	40
	(9) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q7」の回答状況	42
	(10) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q8」の回答状況	44

(11) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q14」の回答状況	46
(12) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q15」の回答状況	48
(13) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q16」の回答状況	50
(14) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q17」の回答状況	52
(15) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q18」の回答状況	54
(16) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q19」の回答状況	56
まとめ・考察	58

I 平成 24, 25, 26 年度歯科実態調査時点で 80 歳の者の 8020 達成状況別医療費、3 年後の介護サービス受給状況および調査後 3 年間の生命予後

1 調査の概要

分析対象者および分析方法

平成 21 年から 26 年まで毎年 5 月末日時点で 40 歳以上の国民健康保険被保険者あるいは後期高齢者医療被保険者で、同月中に香川県歯科医師会会員の歯科を受診した者の口腔内の状態を調査(以下、歯科実態調査)してきている。

これらデータのうち、平成 24, 25, 26 年度の歯科実態調査時点で 80 歳だった者を抽出した。医科・歯科・調剤費の分析に関しては、実態調査年度の各費用を集計し、3 ヶ年分を合わせて分析した。介護サービス受給状況については、歯科実態調査年度から 3 年後に発生したもの、死亡については歯科実態調査後 3 年間に発生したものについて集計し分析を行った(下表参照)。

香川県国民健康保険団体連合会および香川県後期高齢者医療広域連合の協力を得て、医療レセプト情報、介護サービス受給情報、死亡(資格喪失の事由で死亡)情報を入手した。なお、個人番号等は完全に暗号化され、個人の遡及は不可能な状態で分析を行った。

歯科実態調査 年度	医科・歯科・調剤費 集計対象年度	介護サービス受給者 集計対象年度	死亡者 集計対象期間
H24	H24	H24 介護サービス受給無で H27 に受給有	H25～H27
H25	H25	H25 介護サービス受給無で H28 に受給有	H26～H28
H26	H26	H26 介護サービス受給無で H29 に受給有	H27～H29

2 調査・分析結果

(1) 8020 達成状況

男性と女性の 8020 達成者の割合はともに約 41%で、男性と女性で 8020 達成者の割合はほぼ同程度だった。

性別	8020	人数	割合
男性	達成	284	41.4%
	非達成	402	58.6%
女性	達成	394	41.0%
	非達成	566	59.0%

(2) 医科・歯科診療費、調剤費(一人あたり1年間、円)状況

医科診療費

男性は、平均値、中央値ともに、8020 達成者の医科診療費は非達成者に比べて低かった。

女性は、平均値、中央値ともに、8020 達成者の医科診療費は非達成者に比べて高かった。

歯科診療費

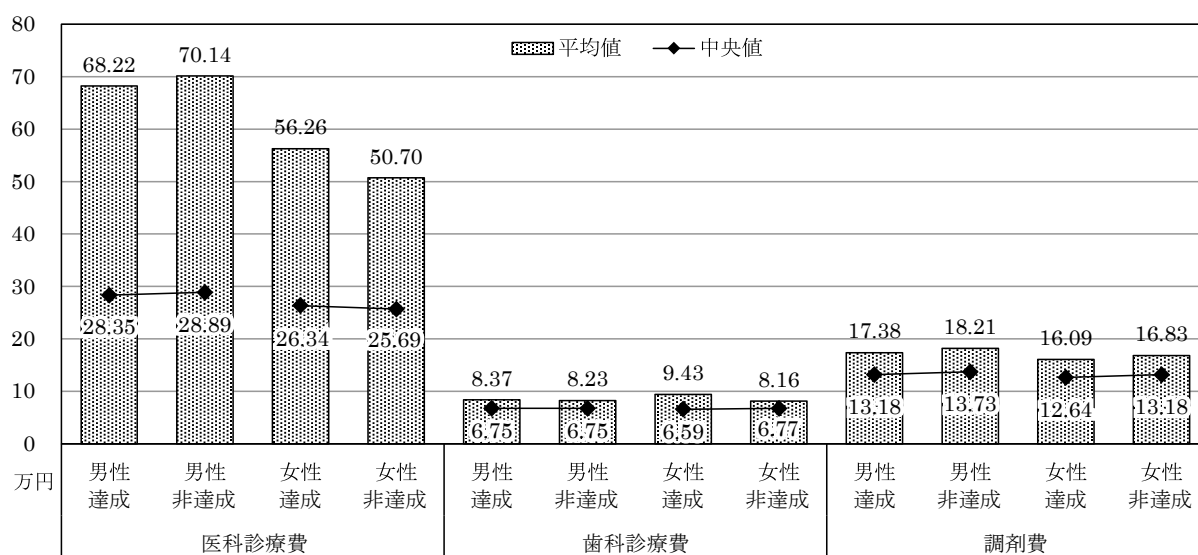
男性は、平均値、中央値ともに差を認めなかった。

女性は、平均値において、8020 達成者の歯科診療費は非達成者に比べ高かった。

調剤費

男女とも平均値、中央値ともに、8020 達成者の調剤費は非達成者に比べて低かった。

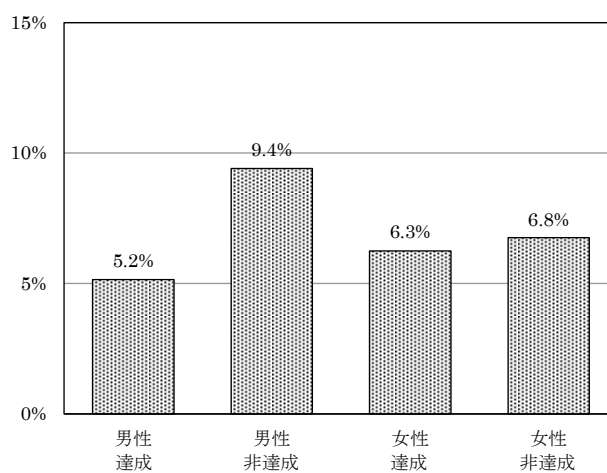
性 別	8020	人数 (人)	医科診療費		歯科診療費		調剤費	
			平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値
男 性	達 成	284	682,200	283,500	83,700	67,500	173,800	131,800
	非達成	402	701,400	288,900	82,300	67,500	182,100	137,300
女 性	達 成	394	562,600	263,400	94,300	65,900	160,900	126,400
	非達成	566	507,000	256,900	81,600	67,700	168,300	131,800



(3) 3年後の介護サービス受給状況

男女とも 8020 達成者の 3 年後の介護サービス受給者の割合は非達成者に比べて低かった。
特に男性でその差が大きかった。

性別	8020	歯科実態調査年に サービス受給無者	3 年後の介護 サービス受給有者	割合
男 性	達 成	233	12	5.2%
	非達成	287	27	9.4%
女 性	達 成	336	21	6.3%
	非達成	474	32	6.8%

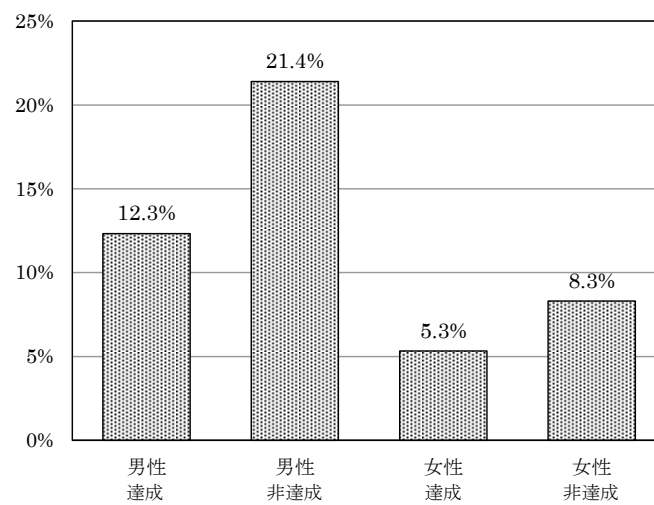


3 年後の介護サービス受給割合

(4) 3年間の死亡状況

男女ともに 8020 達成者の 3 年間の死亡者数の割合は非達成者に比べて低かった。
特に男性でその差が大きかった。

性別	8020	調査対象者数	3年間の死亡者数	割合
男 性	達 成	284	35	12.3%
	非達成	402	86	21.4%
女 性	達 成	394	21	5.3%
	非達成	566	47	8.3%



3年間の死亡割合

まとめ・考察

男性と女性の 8020 達成者の割合はともに約 41%で、男性と女性で 8020 達成者の割合はほぼ同程度だった。厚労省の歯科疾患実態調査によると 80~84 歳で 20 本以上の歯を有する者の割合が平成 23 年度 28.9%、平成 28 年度が 44.2% だったことから、ほぼ全国と同レベルだった。

医科診療費は、男性 8020 達成者は非達成者より低くかったが、女性は逆に 8020 達成者の方が高くなった。これまでの研究結果から、現在歯数の多い 8020 達成者の方が医科診療費は低くなると予測したもの、女性は逆の結果となった。歯科診療費において女性 8020 達成者が非達成者よりも高くなっており、女性 8020 達成者の健康意識が高く、医療機関への受診行動が活発だったのかもしれない。また、今回対象年齢を 80 歳に絞ったことで対象者数が少なくなり、個々の診療費の偏りが影響しやすくなったのも原因の一つかもしれない。

一方、3 年後の介護サービス受給割合と 3 年間の死亡割合は、男女とも 8020 達成者の方が非達成者よりも低く、特に男性でその傾向が強く現れた。この結果から 8020 達成は健康寿命の延伸に寄与すると考える。

Ⅱ 平成 30 年度特定健診受診者の歯科問診項目回答別インフルエンザ有病率及び肺炎有病率

1 調査の概要

分析対象者および分析方法

平成 20 年度から特定健診・特定保健指導が始まり、当初より香川県では市町国保の特定健診および後期高齢者健診(以下特定健診という)の質問票に香川県独自の歯科に関する 7 項目の質問を追加している。平成 30 年度から、全国統一の標準的な問診票に歯科関連項目が追加されたことから、香川県では従来の質問項目のうち「何でもかんで食べられる(回答:はい、いいえ)」を「あなたの歯の本数は 20 本以上ありますか」に変更した(下表参照)。

歯 に 関 し て	1	あなたの歯の本数は20本以上ありますか *歯数は全部揃っている場合、「親知らず」を除き28本です なお、義歯・インプラントは除きます	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない
	2	歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることもある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	3	歯ぐきが腫れることがある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	4	歯がぐらぐらする	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	5	デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	6	フッ素入り歯みがき剤を使っている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	7	定期的(年に1回以上)に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

本調査では、口腔健康管理と感染症予防の観点から、平成 30 年度特定健診受診者の歯科質問項目回答状況別インフルエンザ有病率及び肺炎有病率について調査を行った。

今回の調査から、KDB 突合データを入手し、分析に供した。なお、個人番号等は完全に暗号化され、個人の遡及は不可能な状態で分析を行った。

KDB 突合データの医療傷病名ファイルを用い、インフルエンザ該当者は ICD-10 コードの J101, J111, J118 を、肺炎該当者は社会保険表章 1004 (肺炎) に該当する ICD-10 コードの J120, J121, J122, J128, J129, J13, J14, J150, J151, J152, J153, J154, J155, J156, J157, J158, J159, J160, J180, J181, J182, J188, J189 として抽出した。

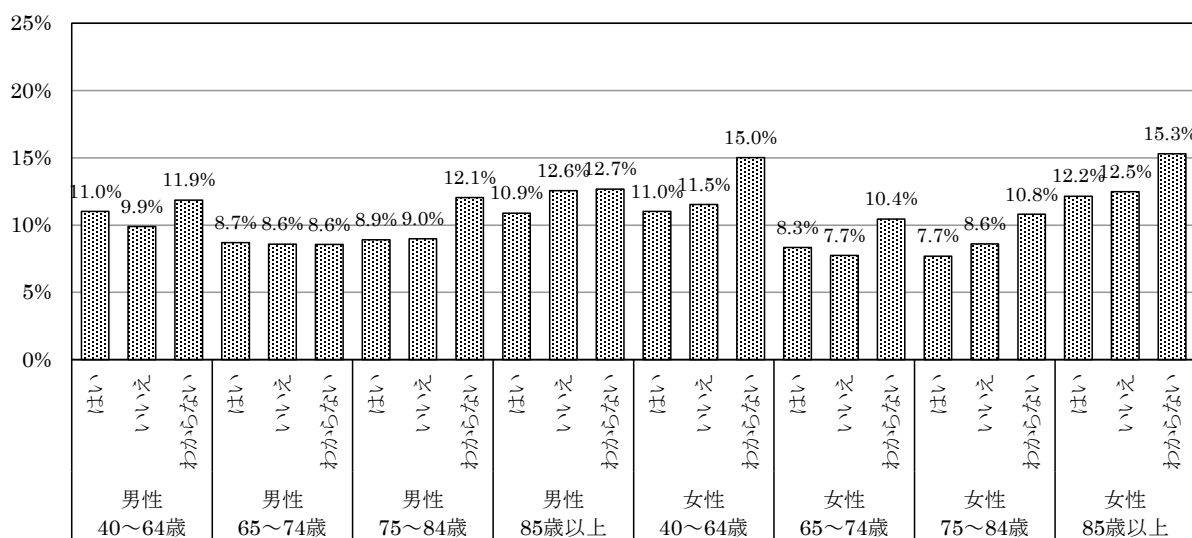
2 調査・分析結果

(1) 質問 1「あなたの歯の本数は 20 本以上ありますか」とインフルエンザ、肺炎の有病率

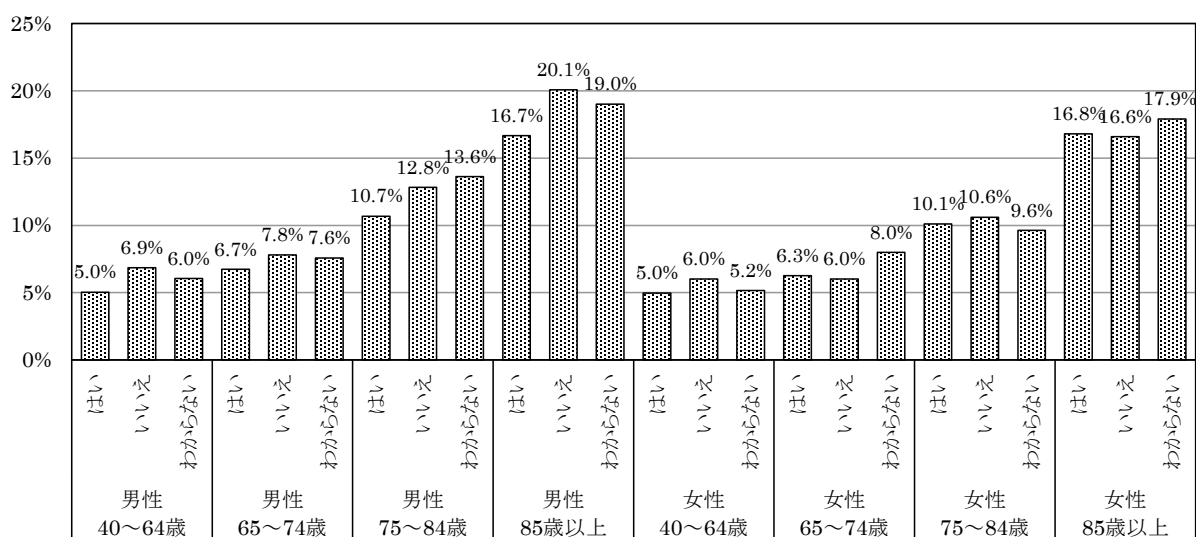
インフルエンザは、年齢別と男女別ともに「はい」「いいえ」回答群で有病率に差を認めなかったが、「わからない」回答群においては男性 40～64 歳、75～84 歳、女性全年齢において有病率が高かった。

肺炎は、男女ともに「いいえ」回答群において、概ね全年齢で有病率が高かった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問2	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	4,253	469	11.0%	214	5.0%
		いいえ	890	88	9.9%	61	6.9%
		わからない	430	51	11.9%	26	6.0%
	65～74歳	はい	9,211	801	8.7%	620	6.7%
		いいえ	6,322	543	8.6%	493	7.8%
		わからない	1,016	87	8.6%	77	7.6%
	75～84歳	はい	5,943	529	8.9%	635	10.7%
		いいえ	6,920	622	9.0%	887	12.8%
		わからない	697	84	12.1%	95	13.6%
	85歳以上	はい	1,074	117	10.9%	179	16.7%
		いいえ	2,884	362	12.6%	579	20.1%
		わからない	221	28	12.7%	42	19.0%
女性	40～64歳	はい	6,864	756	11.0%	341	5.0%
		いいえ	1,180	136	11.5%	71	6.0%
		わからない	466	70	15.0%	24	5.2%
	65～74歳	はい	15,128	1,260	8.3%	946	6.3%
		いいえ	8,038	622	7.7%	483	6.0%
		わからない	1,388	145	10.4%	111	8.0%
	75～84歳	はい	9,063	697	7.7%	915	10.1%
		いいえ	10,316	887	8.6%	1,094	10.6%
		わからない	1,194	129	10.8%	115	9.6%
	85歳以上	はい	1,786	217	12.2%	300	16.8%
		いいえ	5,897	736	12.5%	979	16.6%
		わからない	497	76	15.3%	89	17.9%



現在歯数 20 本以上の有無とインフルエンザ有病率



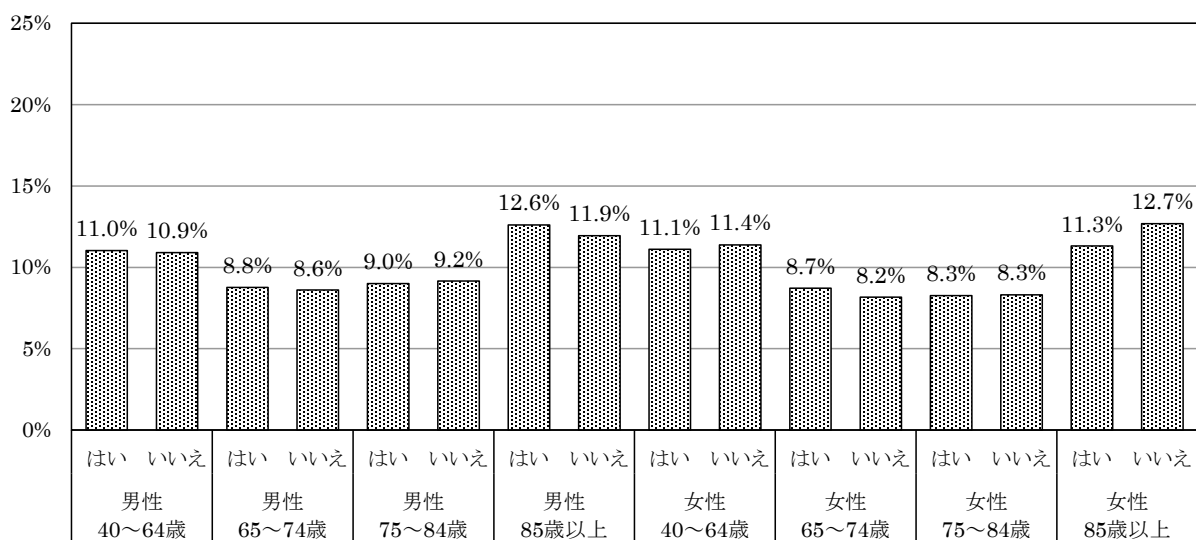
現在歯数 20 本以上の有無と肺炎有病率

(2) 質問 2「歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることもある」とインフルエンザ、肺炎の有病率

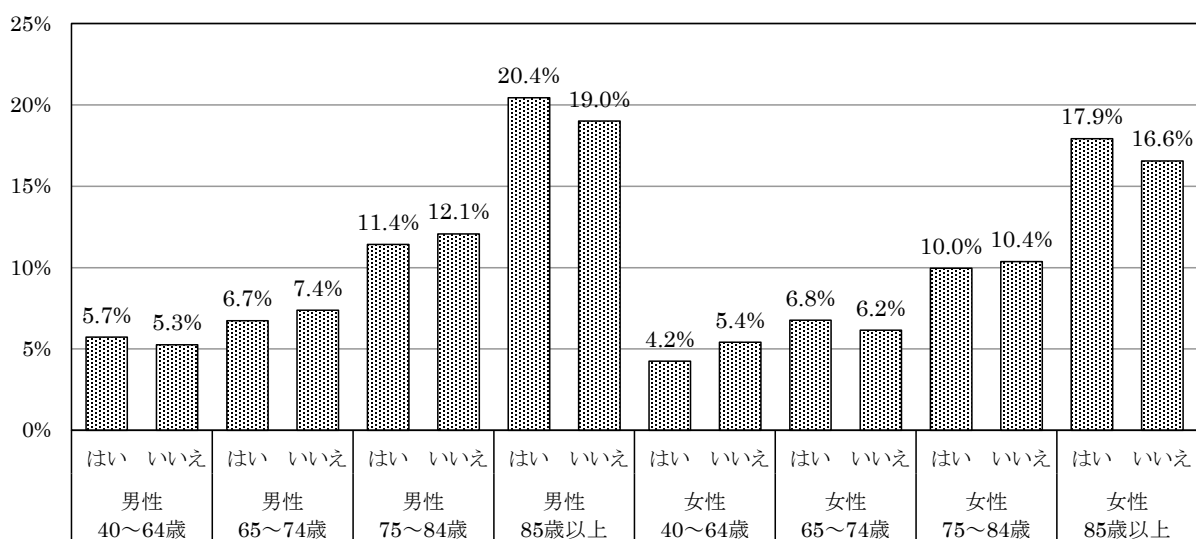
インフルエンザは、年齢別と男女別ともに回答状況による有病率に差を認めなかった。また男女ともに回答状況にかかわらず、40～64 歳と 85 歳以上で有病率が高かった。

肺炎は、男女ともに 85 歳以上で「はい」回答群において有病率が高かった。また年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問2	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	1,832	202	11.0%	105	5.7%
		いいえ	3,713	405	10.9%	195	5.3%
	65～74歳	はい	3,877	340	8.8%	261	6.7%
		いいえ	12,592	1,083	8.6%	929	7.4%
	75～84歳	はい	2,145	193	9.0%	245	11.4%
		いいえ	11,363	1,040	9.2%	1,372	12.1%
	85歳以上	はい	460	58	12.6%	94	20.4%
		いいえ	3,708	443	11.9%	705	19.0%
女性	40～64歳	はい	2,287	254	11.1%	97	4.2%
		いいえ	6,189	704	11.4%	335	5.4%
	65～74歳	はい	4,772	416	8.7%	323	6.8%
		いいえ	19,717	1,610	8.2%	1,214	6.2%
	75～84歳	はい	2,831	234	8.3%	282	10.0%
		いいえ	17,695	1,471	8.3%	1,834	10.4%
	85歳以上	はい	725	82	11.3%	130	17.9%
		いいえ	7,433	943	12.7%	1,231	16.6%



歯肉出血の有無とインフルエンザ有病率



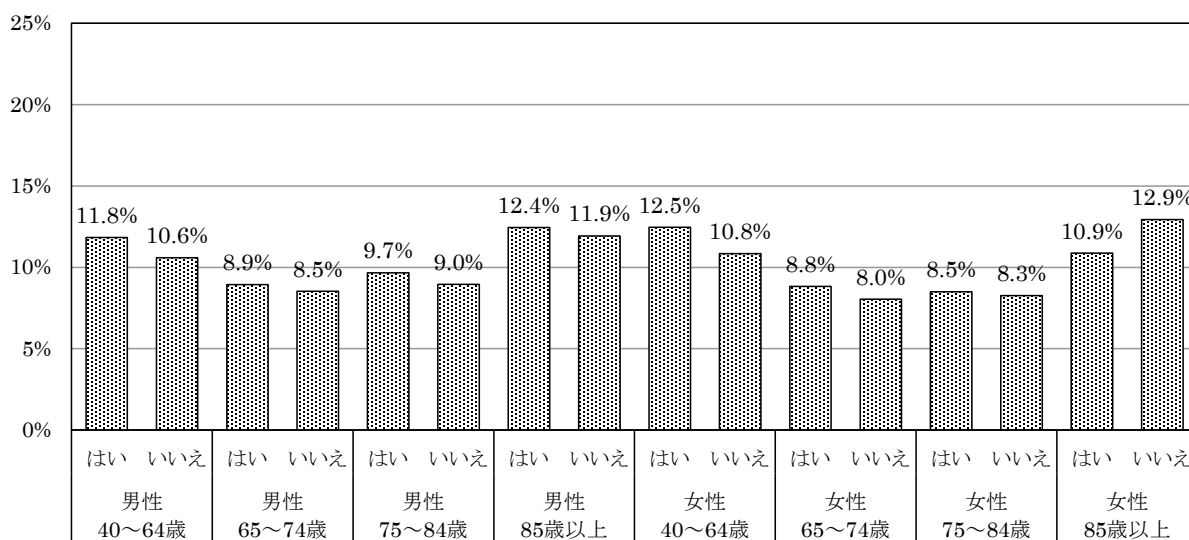
歯肉出血の有無と肺炎有病率

(3) 質問 3「歯ぐきが腫れることがある」とインフルエンザ、肺炎の有病率

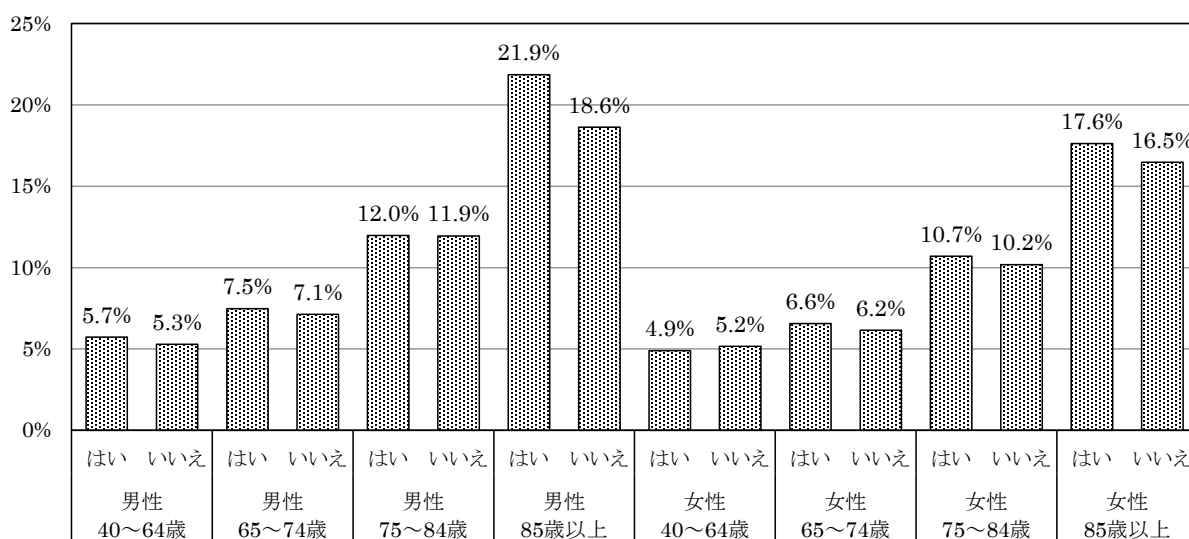
インフルエンザは、男性の全年齢区分と女性の 40～84 歳の「はい」回答群において有病率が高かった。また、男女とも回答状況にかかわらず、40～64 歳と 85 歳以上で有病率が高かった。

肺炎は、男女とも概ね全年齢区分の「はい」回答群において有病率が高かった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問3	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	1,622	192	11.8%	93	5.7%
		いいえ	3,920	415	10.6%	207	5.3%
	65～74歳	はい	4,442	397	8.9%	332	7.5%
		いいえ	12,023	1,025	8.5%	858	7.1%
	75～84歳	はい	2,991	289	9.7%	358	12.0%
		いいえ	10,522	943	9.0%	1,257	11.9%
	85歳以上	はい	691	86	12.4%	151	21.9%
		いいえ	3,479	415	11.9%	648	18.6%
女性	40～64歳	はい	2,472	308	12.5%	121	4.9%
		いいえ	5,999	650	10.8%	310	5.2%
	65～74歳	はい	6,926	611	8.8%	454	6.6%
		いいえ	17,570	1,413	8.0%	1,082	6.2%
	75～84歳	はい	5,016	426	8.5%	537	10.7%
		いいえ	15,502	1,281	8.3%	1,579	10.2%
	85歳以上	はい	1,554	169	10.9%	274	17.6%
		いいえ	6,591	853	12.9%	1,086	16.5%



歯肉腫脹の有無とインフルエンザ有病率



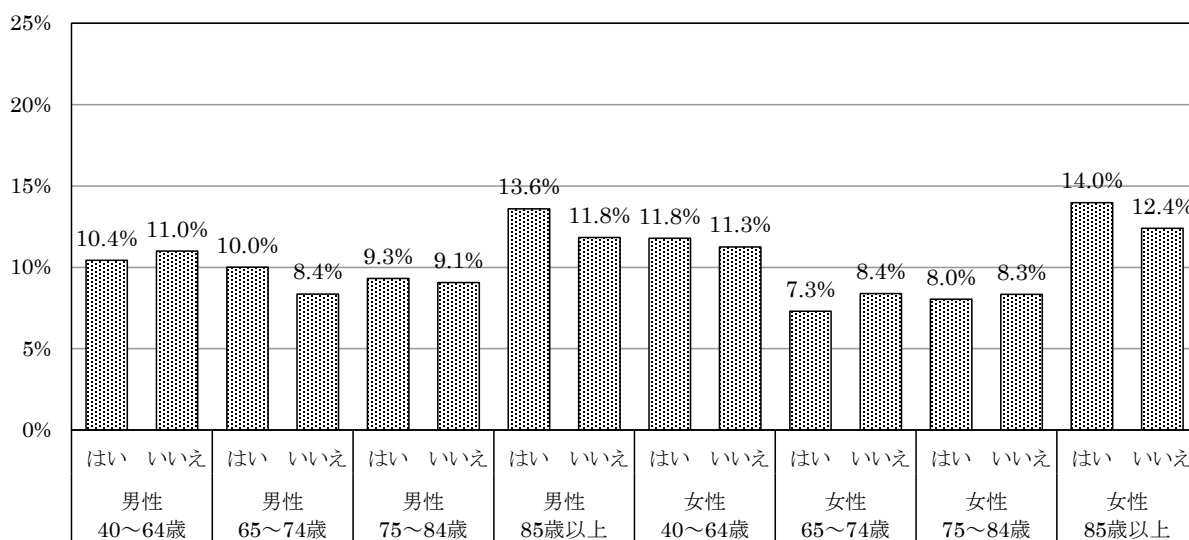
歯肉腫脹の有無と肺炎有病率

(4) 質問 4「歯がぐらぐらする」とインフルエンザ、肺炎の有病率

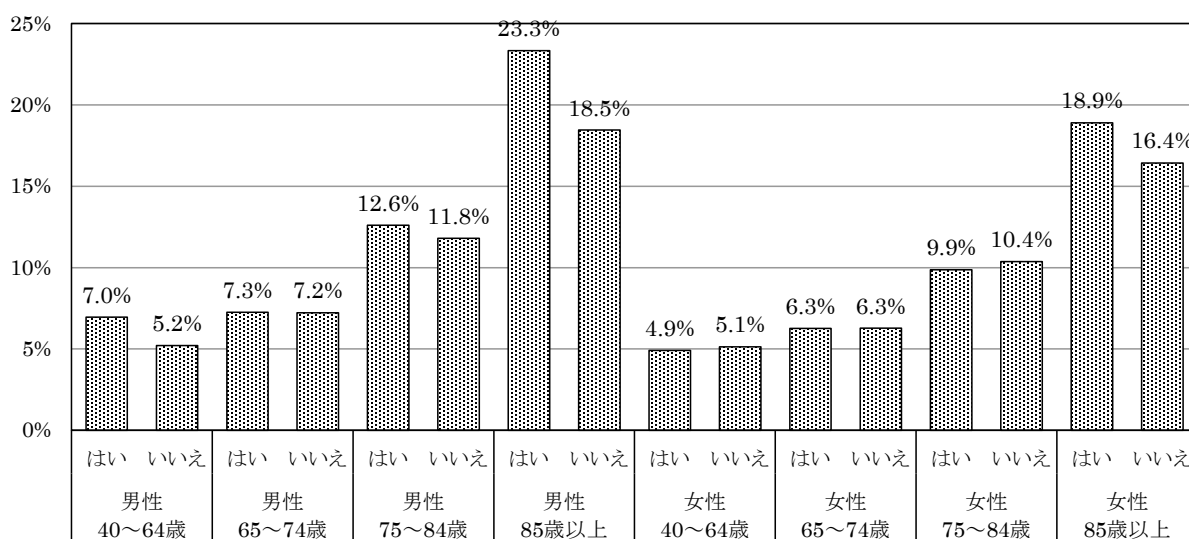
インフルエンザは、85 歳以上の男女と 65～74 歳男性の「はい」回答群と 65～74 歳女性の「いいえ」回答群において有病率が高かった。その他の群では有病率の差を認めなかった。

肺炎は、男性では概ね全年齢区分の「はい」回答群において有病率が高かった。女性では 85 歳以上で「はい」回答群において有病率が高かった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問4	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	633	66	10.4%	44	7.0%
		いいえ	4,899	539	11.0%	255	5.2%
	65～74歳	はい	2,867	287	10.0%	208	7.3%
		いいえ	13,587	1,136	8.4%	981	7.2%
	75～84歳	はい	2,127	198	9.3%	268	12.6%
		いいえ	11,348	1,029	9.1%	1,340	11.8%
女性	85歳以上	はい	544	74	13.6%	127	23.3%
		いいえ	3,609	427	11.8%	666	18.5%
	40～64歳	はい	611	72	11.8%	30	4.9%
		いいえ	7,843	883	11.3%	402	5.1%
	65～74歳	はい	2,669	195	7.3%	167	6.3%
		いいえ	21,794	1,828	8.4%	1,368	6.3%
女性	75～84歳	はい	2,361	190	8.0%	233	9.9%
		いいえ	18,112	1,511	8.3%	1,878	10.4%
	85歳以上	はい	894	125	14.0%	169	18.9%
		いいえ	7,229	896	12.4%	1,188	16.4%



歯の動揺の有無とインフルエンザ有病率



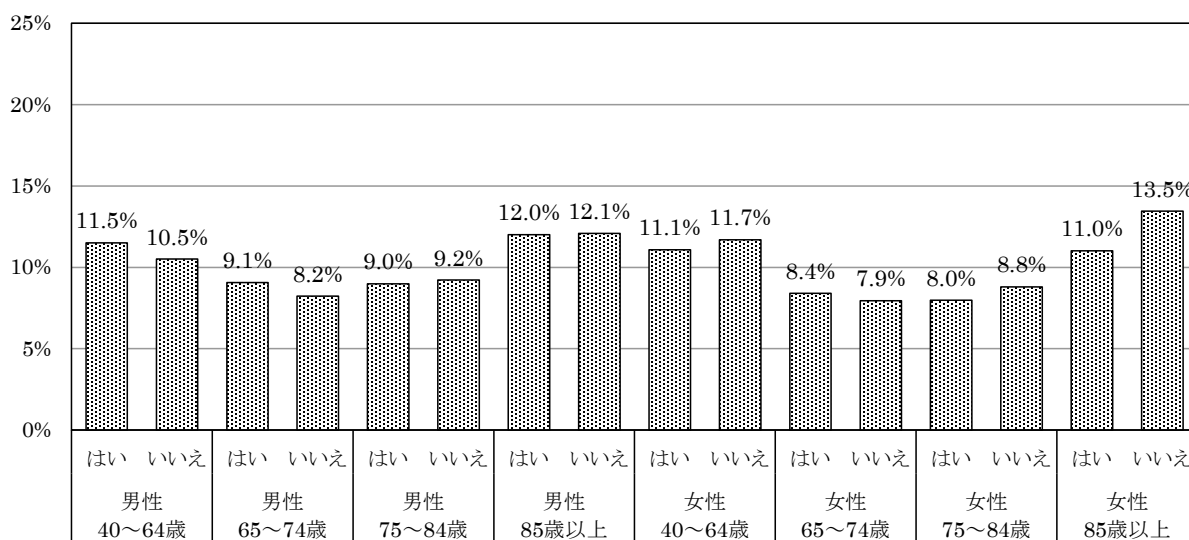
歯の動揺の有無と肺炎有病率

(5) 質問 5「デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている」とインフルエンザ、肺炎の有病率

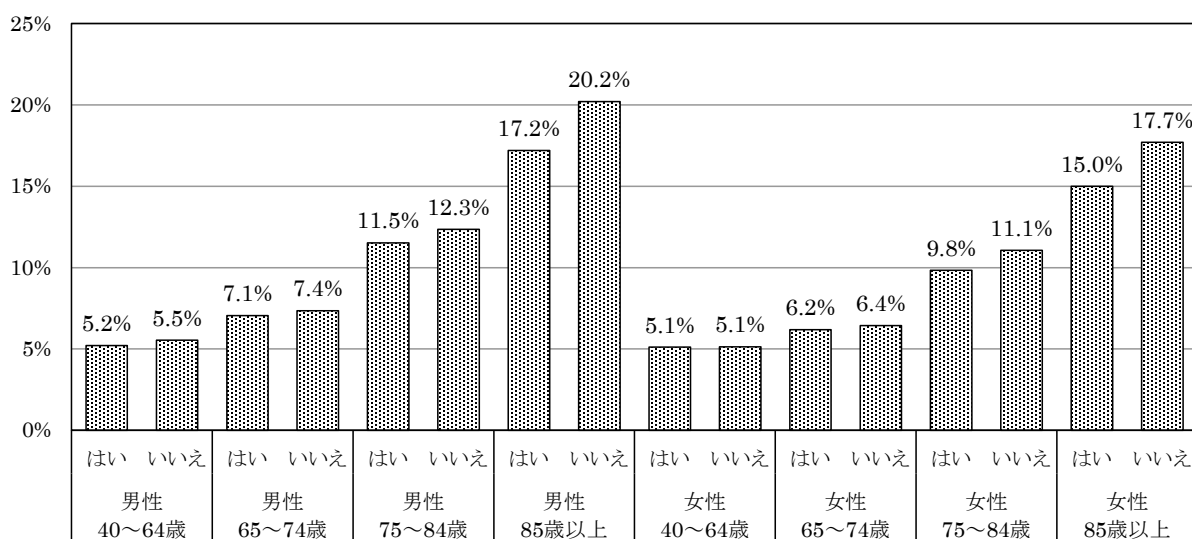
インフルエンザは、85 歳以上女性の「いいえ」回答群において有病率が高かったが、その他の群では有病率に差を認めなかった。

肺炎は、概ね全年齢区分男女の「いいえ」回答群において有病率が高かった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問5	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	2,383	274	11.5%	124	5.2%
		いいえ	3,160	332	10.5%	175	5.5%
	65～74歳	はい	7,985	724	9.1%	563	7.1%
		いいえ	8,501	700	8.2%	625	7.4%
	75～84歳	はい	6,816	613	9.0%	785	11.5%
		いいえ	6,673	615	9.2%	824	12.3%
女性	85歳以上	はい	1,541	185	12.0%	265	17.2%
		いいえ	2,622	317	12.1%	530	20.2%
	40～64歳	はい	5,373	595	11.1%	275	5.1%
		いいえ	3,121	365	11.7%	160	5.1%
	65～74歳	はい	16,651	1,400	8.4%	1,031	6.2%
		いいえ	7,892	627	7.9%	508	6.4%
	75～84歳	はい	12,490	997	8.0%	1,228	9.8%
		いいえ	8,019	706	8.8%	887	11.1%
	85歳以上	はい	2,994	330	11.0%	449	15.0%
		いいえ	5,141	692	13.5%	910	17.7%



歯間清掃器具使用の有無とインフルエンザ有病率



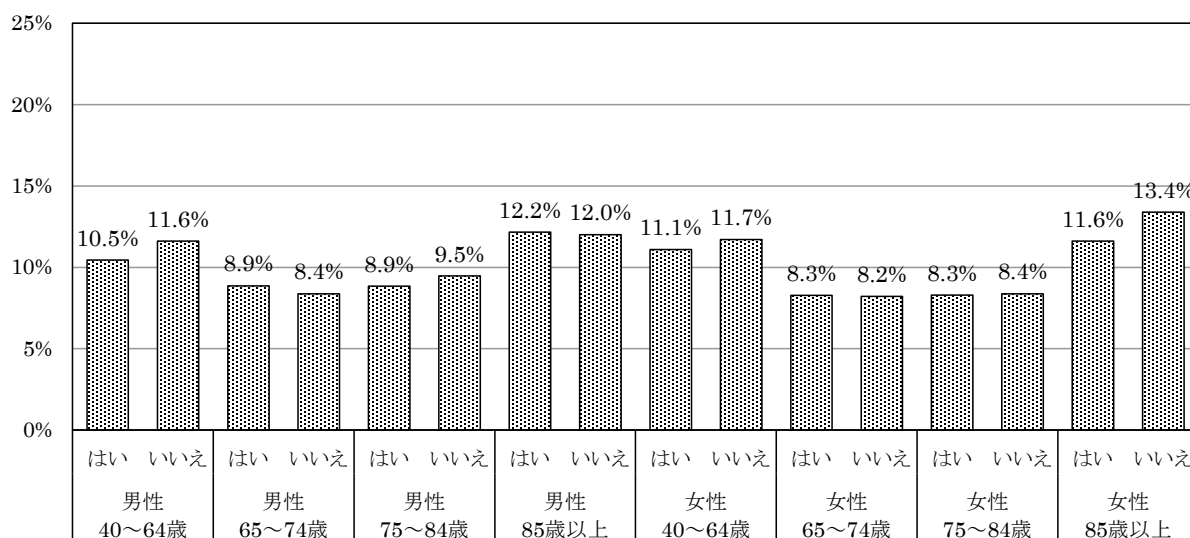
歯間清掃器具使用の有無と肺炎有病率

(6) 質問 6「フッ素入り歯みがき剤を使っている」とインフルエンザ、肺炎の有病率

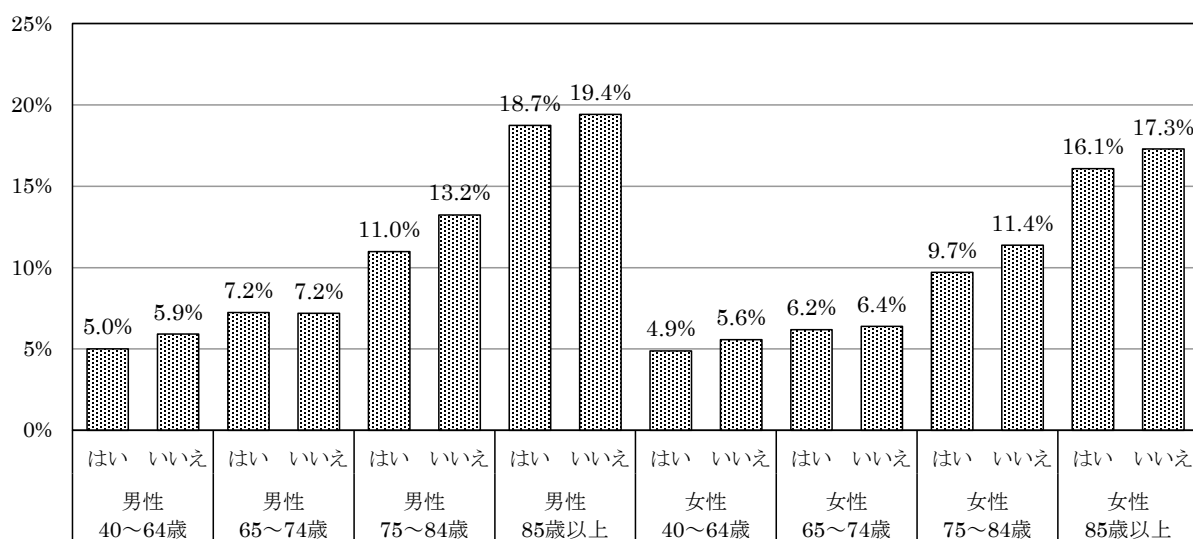
インフルエンザは、40～64 歳男性と 85 歳以上女性の「いいえ」回答群と有病率が高かった。その他の群では有病率の差を認めなかった。

肺炎は、概ね全年齢区分男女の「いいえ」回答群において有病率が高かった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問6	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	3,177	332	10.5%	159	5.0%
		いいえ	2,367	275	11.6%	140	5.9%
	65～74歳	はい	9,137	810	8.9%	661	7.2%
		いいえ	7,349	615	8.4%	528	7.2%
	75～84歳	はい	7,774	688	8.9%	854	11.0%
		いいえ	5,725	542	9.5%	758	13.2%
	85歳以上	はい	1,883	229	12.2%	353	18.7%
		いいえ	2,282	274	12.0%	443	19.4%
女性	40～64歳	はい	5,576	619	11.1%	272	4.9%
		いいえ	2,912	341	11.7%	162	5.6%
	65～74歳	はい	15,885	1,316	8.3%	983	6.2%
		いいえ	8,629	709	8.2%	551	6.4%
	75～84歳	はい	12,948	1,073	8.3%	1,257	9.7%
		いいえ	7,570	634	8.4%	861	11.4%
	85歳以上	はい	3,824	444	11.6%	615	16.1%
		いいえ	4,315	578	13.4%	746	17.3%



フッ素入り歯磨剤使用の有無とインフルエンザ有病率



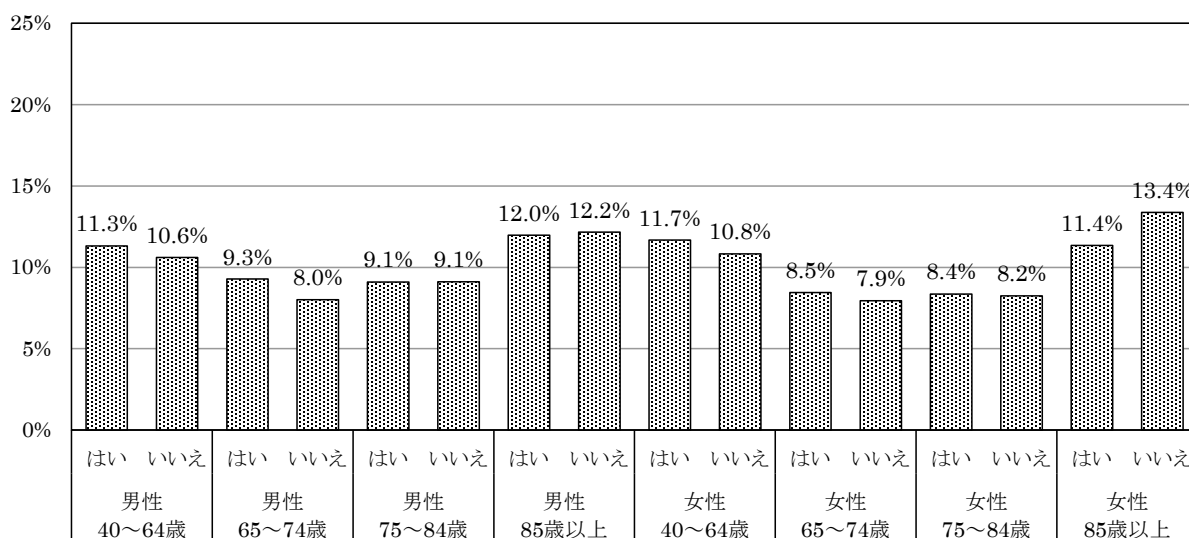
フッ素入り歯磨剤使用の有無と肺炎有病率

(7) 質問 7「定期的(年に 1 回以上)に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している」とインフルエンザ、肺炎の有病率

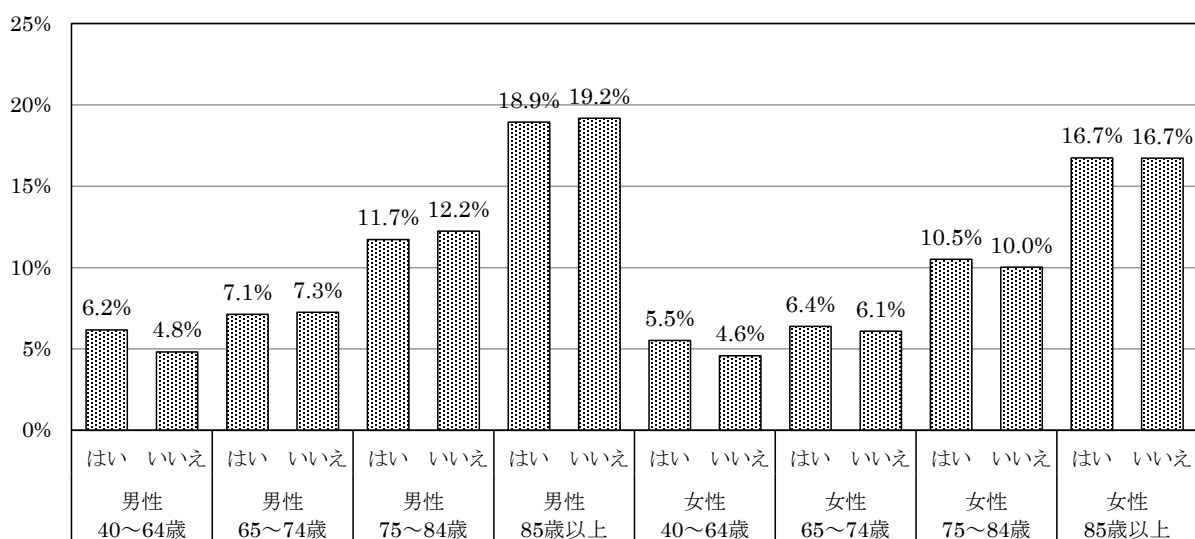
インフルエンザは、65～74 歳男性の「はい」回答群と 85 歳以上女性の「いいえ」回答群において有病率が高かった。その他の群では有病率に差を認めなかった。

肺炎は、40～64 歳男性の「はい」回答群において有病率が高かった。その他の群では有病率に差を認めなかった。また、年齢の上昇とともに有病率も上昇していた。

性別	年齢区分	質問7	回答 人数	インフルエンザ		肺炎	
		選択肢		有病者数	有病率	有病者数	有病率
男性	40～64歳	はい	2,368	268	11.3%	146	6.2%
		いいえ	3,175	337	10.6%	153	4.8%
	65～74歳	はい	8,406	780	9.3%	599	7.1%
		いいえ	8,098	649	8.0%	588	7.3%
	75～84歳	はい	7,789	709	9.1%	913	11.7%
		いいえ	5,740	523	9.1%	703	12.2%
	85歳以上	はい	1,837	220	12.0%	348	18.9%
		いいえ	2,336	284	12.2%	448	19.2%
女性	40～64歳	はい	4,833	564	11.7%	267	5.5%
		いいえ	3,650	395	10.8%	167	4.6%
	65～74歳	はい	14,886	1,259	8.5%	950	6.4%
		いいえ	9,652	767	7.9%	588	6.1%
	75～84歳	はい	12,401	1,037	8.4%	1,303	10.5%
		いいえ	8,158	673	8.2%	818	10.0%
	85歳以上	はい	3,206	364	11.4%	537	16.7%
		いいえ	4,957	663	13.4%	829	16.7%



定期歯科検診の有無とインフルエンザ有病率



定期歯科検診の有無と肺炎有病率

まとめ・考察

1. 現在歯数の質問項目（質問1）について

インフルエンザは、現在歯数の違いでは有病率に差を認めなかったが、20 本以上歯があるか「わからない」回答群においては有病率が高かった。これには健康への意識の低さが影響していると考えられる。つまり、現在歯数を把握できていない群は健康への関心が低い集団と考えられ、このことが、感染予防行動（特にインフルエンザワクチン接種）に影響を与えている可能性がある。

肺炎は、「いいえ」回答群において、年齢や性別に関係なく有病率が高かった。「いいえ」回答群は歯周病の罹患率も高いことが考えられるため、誤嚥性肺炎に限定はされるが、その点で肺炎の有病率が高くなっていると思われる。

2. 歯周病関連の質問項目（質問2・3・4）について

インフルエンザは、質問 3「歯ぐきが腫れることがある」では「はい」回答群で概ね有病率が高かったが、質問 2「歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることもある」質問4「歯がぐらぐらする」では有病率に差を認めなかった。質問 3 では、ある程度歯周病が進行し、急性症状も認めている項目である。そのため歯周病の進行状態がインフルエンザの有病率と関係している可能性が示唆される。

肺炎は、歯周病関連の全項目で、歯周病が疑われる回答群において有病率が高かった。特に 85 歳以上の高齢者は、その差が著明に現れている。これには高齢化に伴い口腔機能の低下が影響していると思われる。

3. 口腔保健行動関連の質問項目（質問5・6・7）について

インフルエンザは、質問 5「デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている」と質問 6「フッ素入り歯磨き剤を使用している」では、特に 85 歳以上の女性の「いいえ」回答群で有病率が高かったが、その他は差を認めなかった。高齢になると、免疫力が低下し、口腔内の清掃状態によってインフルエンザ感染へのリスクが高くなる可能性が示唆された。しかしその他の年齢層や 85 歳以上の男性で差がないという点では、歯間清掃器具やフッ素入り歯磨き剤の使用の有無と感染リスクとの間に明確な関連性を認める事はできなかった。質問 7「定期的に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している」では、65~74 歳男性の「はい」回答群で有病率が高く、それとは逆に 85 歳以上女性の「いいえ」回答群で有病率が高かった。またその他の性差や年齢群では差を認めないことから、定期検診とインフルエンザ予防との相関関係を見出すことはできなかった。

一方、肺炎は質問 5・6 で概ね「いいえ」回答群で有病率が高いことから、歯間清掃器具やフッ素入り歯みがき剤を使用するといった適切なセルフケアは肺炎予防効果が高く、また重症化の抑制につながる事が考えられる。質問7では差はなかったが、定期検診の際に、T B Iを行い口腔ケアの重要性を伝える絶好の機会であることから、定期検診を促進することは大切である。

4. 年齢との関係について

すべての調査項目において、インフルエンザは全年齢層で一定の有病率を示したのに対して、肺炎は年齢が高くなる程有病率が高くなる傾向を示した。いずれもワクチンが存在し定期接種が実施されているにも関わらず、有病率にこのような差がみられたのは興味深い。ワクチンの接種率、有効年数や予防効果等の影響も考えられるが、高齢者に多い誤嚥性肺炎では、肺炎球菌以外のグラム陽性菌、グラム陰性菌、嫌気性菌も原因菌となることから、高齢化に伴う口腔機能の低下が要因となっている可能性が示唆される。

今回の調査では、インフルエンザと肺炎球菌のワクチン接種状況について把握することが困難であったため、調査結果にある程度バイアスがかかっていることも考えられる。そのため、今回の質問項目から正確に判断することは困難ではあるが、インフルエンザは歯周病の進行の程度で感染リスクが高くなる可能性が推測された。今後さらにワクチン接種の接種状況を含めた検証が望まれる。

肺炎は、以前からの調査結果と同様に、歯周病との相関関係は高いという結果であった。また口腔ケアによる肺炎予防効果も高いため、さらに歯科受診による歯周病のコントロールと定期検診の重要性を伝えていきたい。

Ⅲ 平成 30 年度特定健診質問項目「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか」の回答状況別医療費及び他の項目との関連

1 調査の概要

分析対象者および分析方法

平成 30 年度から特定健診の問診票の質問項目が見直され、新たに口腔に関する項目「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか」が追加された。

この質問項目の回答別に医療費等の状況及び歯科質問項目や食生活に関する質問項目との関連を分析した。

なお、標準的な質問票の質問項目は標_Qxx、香川県独自の質問項目は香_Qxxと表記する。

標準的な質問項目

13	食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか	<input type="checkbox"/> 何でもかんで食べることができる <input type="checkbox"/> 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある <input type="checkbox"/> ほとんどかめない
8	現在、たばこを習慣的に吸っている (※「現在、習慣的に喫煙している者」とは、「合計100本以上、又は6ヶ月以上吸っている者」であり、最近1ヶ月間も吸っている者)	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
14	人と比較して食べる速度が速い	<input type="checkbox"/> 速い <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> 遅い
15	就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
16	朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか	<input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> 時々 <input type="checkbox"/> ほとんど摂取しない
17	朝食を抜くことが週に3回以上ある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
18	お酒（日本酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲む頻度	<input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> 時々 <input type="checkbox"/> ほとんど飲まない（飲めない）
19	飲酒日の1日当たりの飲酒量 日本酒1合（180ml）の目安：ビール500ml、焼酎25度（110ml）、ウイスキーダブル1杯（60ml）、ワイン2杯（240ml）	<input type="checkbox"/> 1合未満 <input type="checkbox"/> 1～2合未満 <input type="checkbox"/> 2～3合未満 <input type="checkbox"/> 3合以上

香川県独自の歯科に関する項目

歯について	1	あなたの歯の本数は20本以上ありますか *歯数は全部揃っている場合、「親知らず」を除き28本です なお、義歯・インプラントは除きます	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない
	2	歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることがある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	3	歯ぐきが腫れることがある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	4	歯がぐらぐらする	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	5	デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	6	フッ素入り歯みがき剤を使っている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	7	定期的（年に1回以上）に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2 調査・分析結果

(1) 性別年齢階級別「標_Q13」の回答状況

「何でもかんで食べることのできる」割合は、男女共に 40～64 歳の年齢群が最も高く、85 歳以上の年齢群が最も低かった。特に女性の 85 歳以上の年齢群は 60% 以下だった。

「歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある」割合は、男性が女性より高く、年齢階級が上がる程高かった。

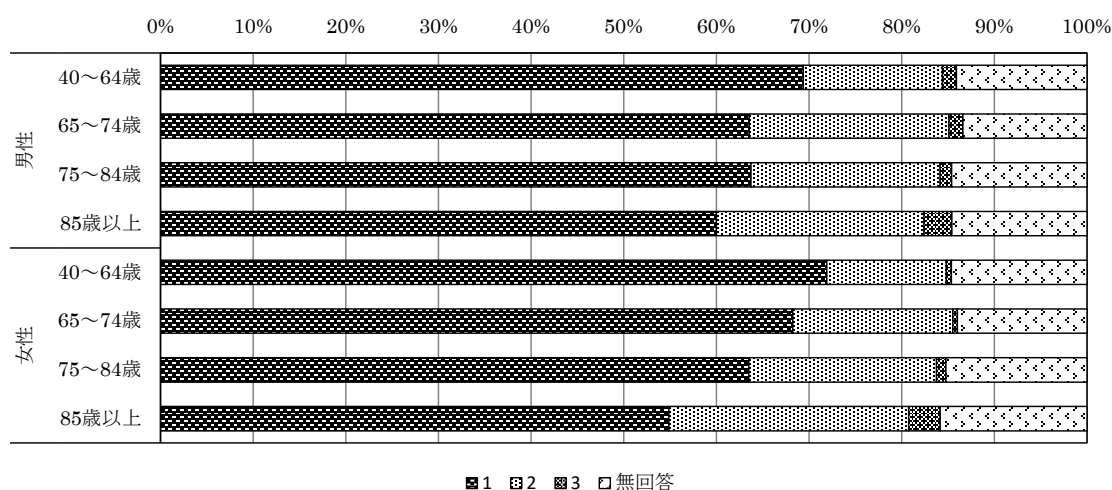
「ほとんどかめない」割合は 40～84 歳では男性が女性より高く、85 歳以上では女性が男性より高かった。

どの年齢層にも 15% 程度の無回答層が存在した。

標_Q13: 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

性別	年齢4区分	人数					割合			
		総数	1	2	3	無回答	1	2	3	無回答
男性	40～64歳	5,575	3,868	838	84	785	69.4%	15.0%	1.5%	14.1%
	65～74歳	16,575	10,535	3,574	246	2,220	63.6%	21.6%	1.5%	13.4%
	75～84歳	13,600	8,667	2,778	170	1,985	63.7%	20.4%	1.3%	14.6%
	85歳以上	4,194	2,516	941	126	611	60.0%	22.4%	3.0%	14.6%
女性	40～64歳	8,515	6,125	1,098	46	1,246	71.9%	12.9%	0.5%	14.6%
	65～74歳	24,589	16,783	4,247	123	3,436	68.3%	17.3%	0.5%	14.0%
	75～84歳	20,621	13,096	4,179	207	3,139	63.5%	20.3%	1.0%	15.2%
	85歳以上	8,207	4,503	2,125	278	1,301	54.9%	25.9%	3.4%	15.9%



(2) 性別年齢階級別「標_Q13」回答別一人あたり1年間あたり診療日数(日)、医療費(円)

食事をかんで食べる時の状態と診療日数および医療費との関連について調べた。

医科診療日数は、男女とも「何でもかんで食べる事ができる」群に比べて、「ほとんどかめない」群の方が多かった。85歳以上の年齢階級では、かめない程度が悪化する程日数が多くなり、「何でもかんで食べる事ができる」群と「ほとんどかめない」群の間で約10日の差を認めた。また高齢になる程多かった。

歯科診療日数は、年齢、性別に関係なく、「何でもかんで食べることができる」群に比べて、「かみにくい」群および「ほとんどかめない」群の方が多かった。

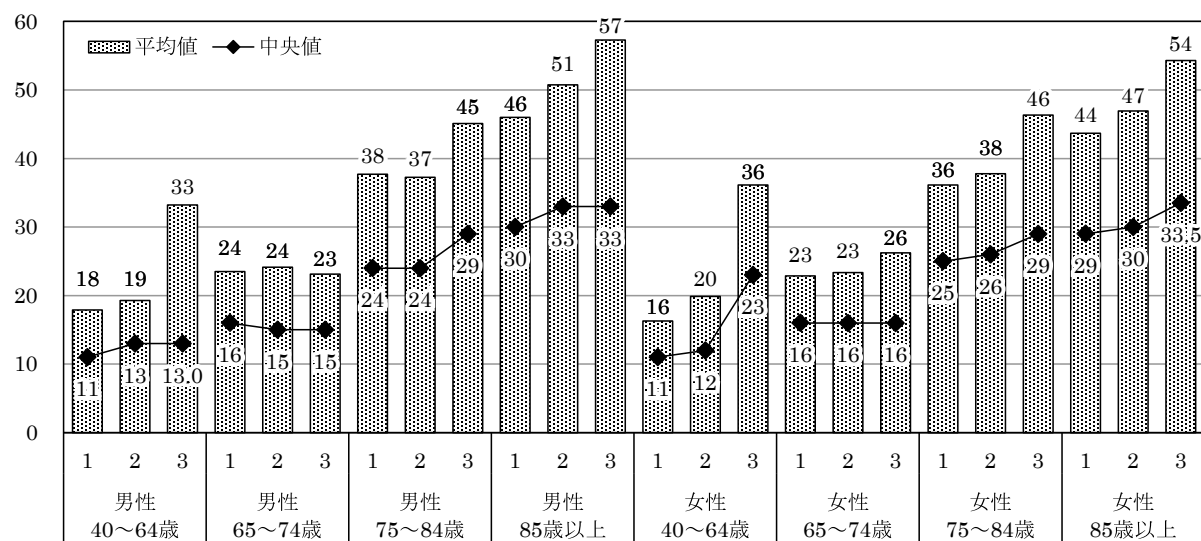
医科診療費は、すべての年齢階級でかめない程度が悪化する程高くなった。また、高齢になる程医科診療費は高く、男性の方が女性よりも高くなる傾向がみられた。

歯科診療費は年齢、性別間であまり差がなかった。すべての年齢階級で「何でもかんで食べることができる」群に比べて「かみにくい」群で高くなったが、「ほとんどかめない」群では低くなる年齢階級もあり、医科診療費程の差は認めなかった。

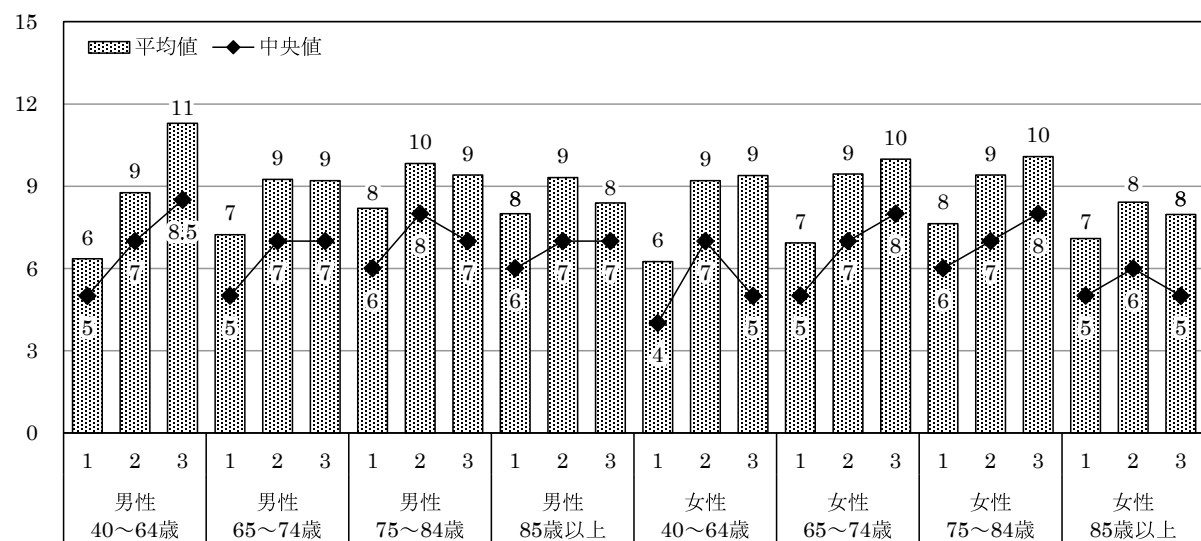
調剤費は、男女とも医科診療費と同様の傾向が認められた。

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	総数	医科日数		歯科日数		医科診療費		歯科診療費		調剤費	
				平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値
男性	40～64歳	1	3,868	18	11	6	5	205,600	72,900	48,200	35,200	82,100	35,500
		2	838	19	13	9	7	241,700	87,400	65,500	49,500	87,800	47,400
		3	84	33	13	11	8.5	457,700	95,800	113,300	87,400	94,000	61,100
	65～74歳	1	10,535	24	16	7	5	307,300	125,600	54,300	40,900	107,000	62,800
		2	3,574	24	15	9	7	336,500	127,500	67,600	50,900	114,500	65,800
		3	246	23	15	9	7	383,800	122,100	58,100	47,300	133,100	85,900
	75～84歳	1	8,667	38	24	8	6	472,700	199,400	62,500	48,100	155,800	109,100
		2	2,778	37	24	10	8	479,000	215,300	71,000	57,500	159,100	113,400
		3	170	45	29	9	7	556,800	233,600	75,600	56,300	179,200	136,800
	85歳以上	1	2,516	46	30	8	6	554,800	265,900	61,400	47,300	193,300	140,700
		2	941	51	33	9	7	656,600	310,200	69,900	54,400	179,800	151,800
		3	126	57	33	8	7	871,400	302,000	71,700	38,800	195,000	148,700
女性	40～64歳	1	6,125	16	11	6	4	165,900	69,000	45,500	34,900	64,200	27,400
		2	1,098	20	12	9	7	197,300	77,900	65,300	48,600	93,900	34,500
		3	46	36	23	9	5	637,900	107,200	62,900	36,800	108,900	67,800
	65～74歳	1	16,783	23	16	7	5	236,000	110,100	52,100	39,800	84,200	50,700
		2	4,247	23	16	9	7	246,800	114,100	67,900	52,100	97,000	54,500
		3	123	26	16	10	8	325,800	122,600	73,900	64,900	131,400	76,800
	75～84歳	1	13,096	36	25	8	6	377,200	183,700	58,600	43,800	136,000	97,500
		2	4,179	38	26	9	7	392,700	196,600	69,700	53,300	148,200	106,900
		3	207	46	29	10	8	428,400	237,300	90,600	58,900	181,800	136,000
	85歳以上	1	4,503	44	29	7	5	501,000	236,400	58,200	41,600	167,000	135,800
		2	2,125	47	30	8	6	587,800	251,000	64,800	47,800	180,300	144,800
		3	278	54	33.5	8	5	643,400	329,800	50,200	34,900	222,000	180,700

医科日数



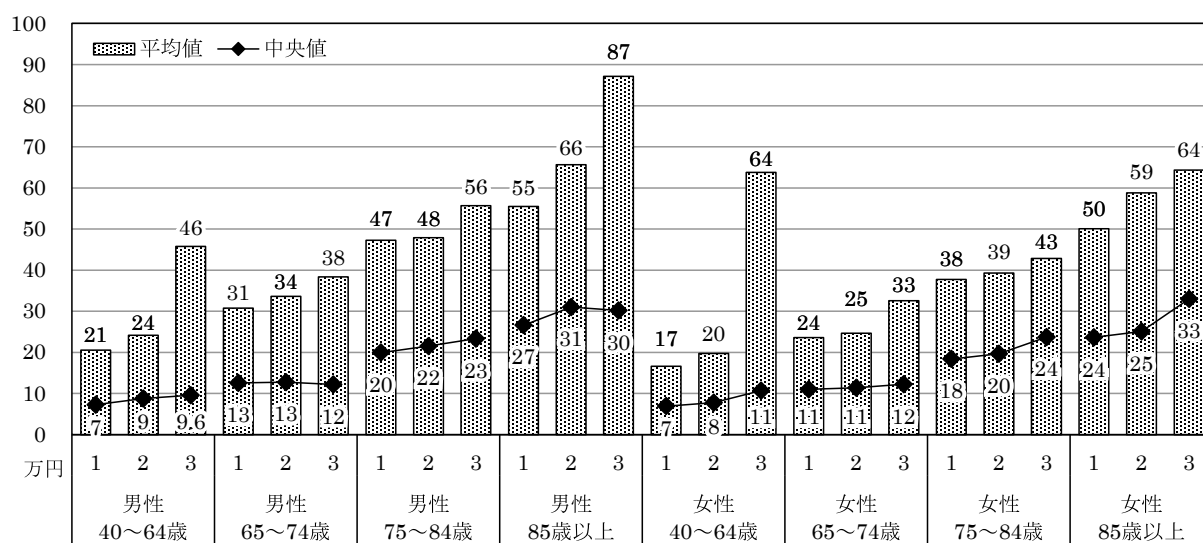
歯科日数



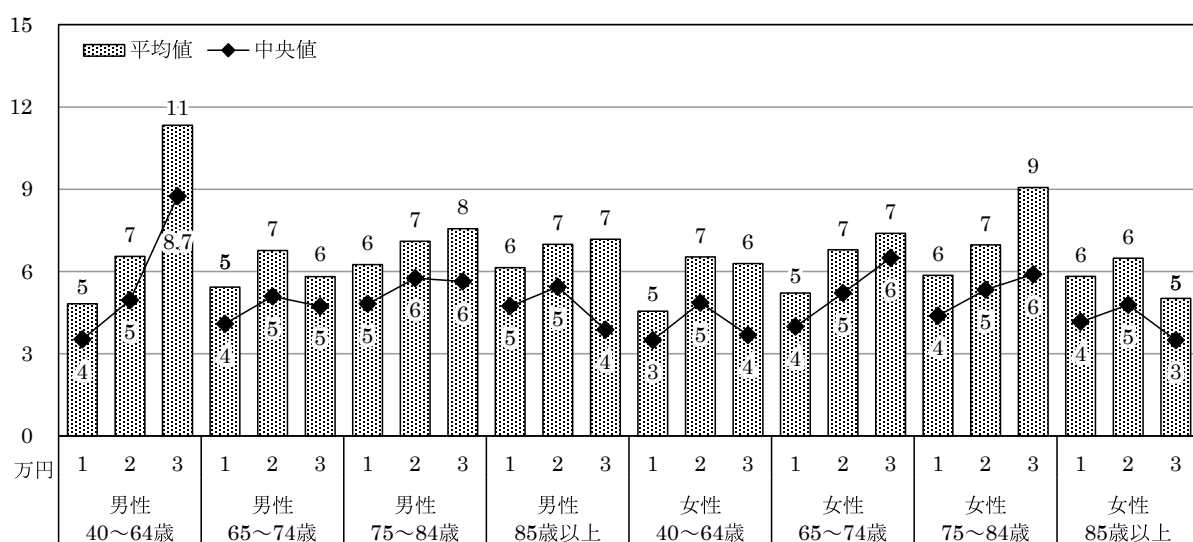
横軸: 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

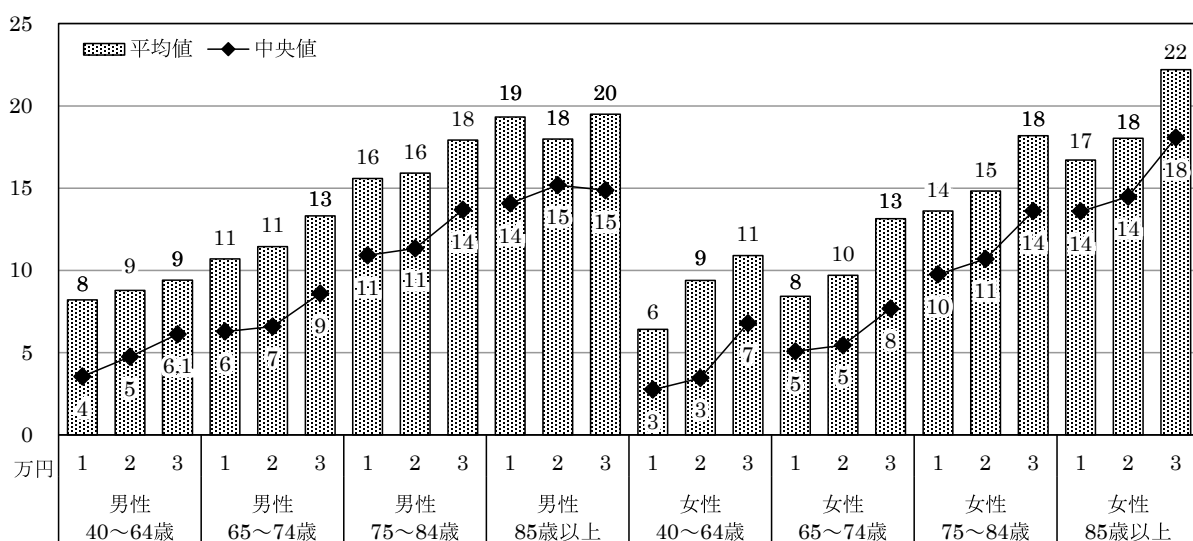
医科診療費



歯科診療費



調剤費



(3) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q1」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と現在歯数との関連について調べた。

全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、20 本以上歯がある割合が最も高く、かめなくなる程その割合は減少していた。

「何でもかんで食べることができる」群で 20 本以上歯がある人の割合は、40～64 歳で 80%以上、65～74 歳で 65%以上、75～84 歳で 50%以上、85 歳以上で 30%程度だった。

年齢階級が上がる程、「かみにくい」群及び「ほとんどかめない」群で 20 本以上歯がない割合が高くなっていた。

20 本以上歯があるか分からない人が、すべての年齢階級で 3～12%存在し、40～64 歳の「かみにくい」群と「ほとんどかめない」群で高い傾向を示した。

それぞれの群で 0～1%程度の無回答があった。

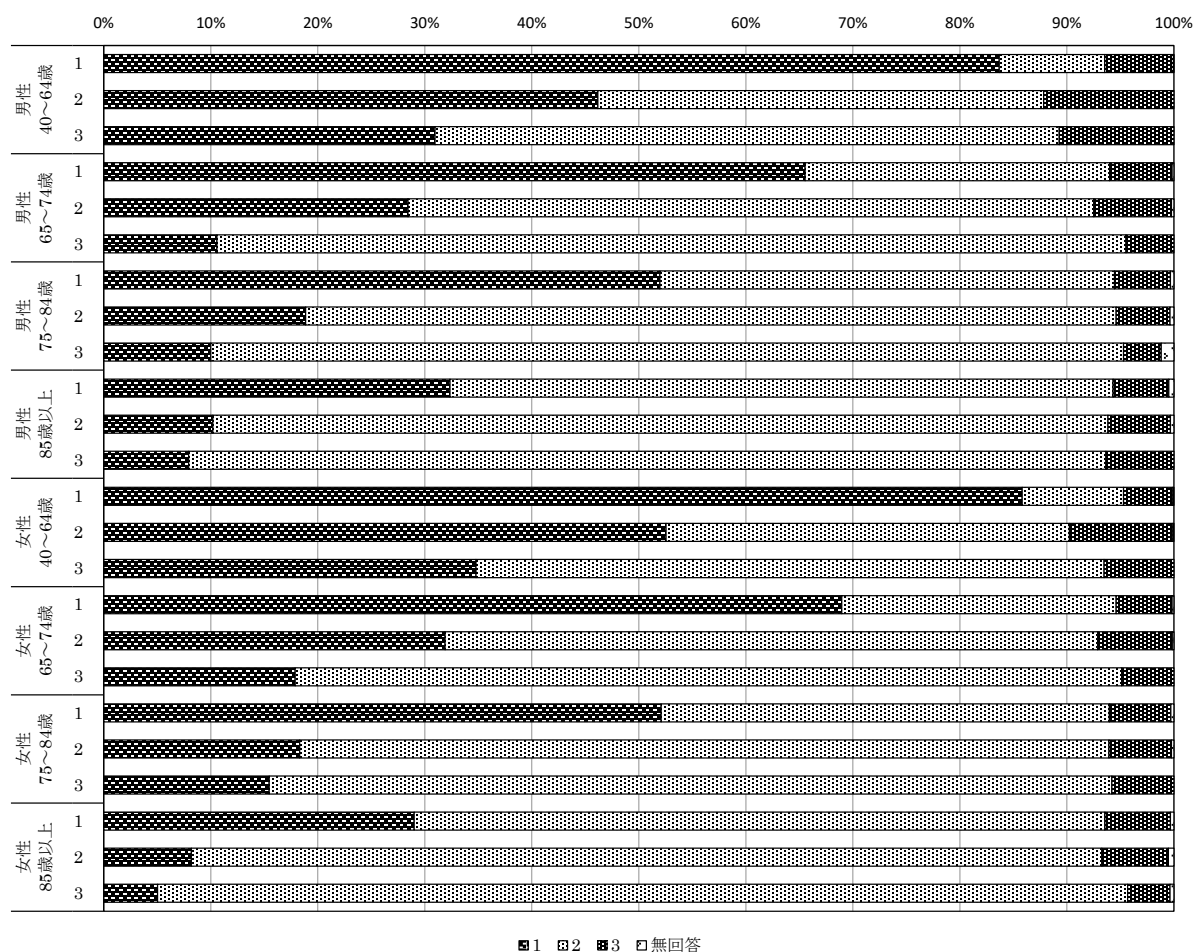
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q1:あなたの歯の本数は 20 本以上ありますか

1. はい
2. いいえ
3. わからない

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q1 回答人数					割合			
			総数	1	2	3	無回答	1	2	3	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	3,237	381	249	1	83.7%	9.9%	6.4%	0.0%
		2	838	387	349	102	0	46.2%	41.6%	12.2%	0.0%
		3	84	26	49	9	0	31.0%	58.3%	10.7%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	6,905	2,998	615	17	65.5%	28.5%	5.8%	0.2%
		2	3,574	1,016	2,291	259	8	28.4%	64.1%	7.2%	0.2%
		3	246	26	209	11	0	10.6%	85.0%	4.5%	0.0%
	75～84歳	1	8,667	4,505	3,681	454	27	52.0%	42.5%	5.2%	0.3%
		2	2,778	524	2,104	140	10	18.9%	75.7%	5.0%	0.4%
		3	170	17	145	6	2	10.0%	85.3%	3.5%	1.2%
	85歳以上	1	2,516	814	1,559	131	12	32.4%	62.0%	5.2%	0.5%
		2	941	96	787	55	3	10.2%	83.6%	5.8%	0.3%
		3	126	10	108	8	0	7.9%	85.7%	6.3%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	5,257	580	283	5	85.8%	9.5%	4.6%	0.1%
		2	1,098	577	414	106	1	52.6%	37.7%	9.7%	0.1%
		3	46	16	27	3	0	34.8%	58.7%	6.5%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	11,575	4,302	877	29	69.0%	25.6%	5.2%	0.2%
		2	4,247	1,355	2,590	296	6	31.9%	61.0%	7.0%	0.1%
		3	123	22	95	6	0	17.9%	77.2%	4.9%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	6,821	5,486	752	37	52.1%	41.9%	5.7%	0.3%
		2	4,179	765	3,161	244	9	18.3%	75.6%	5.8%	0.2%
		3	207	32	163	12	0	15.5%	78.7%	5.8%	0.0%
	85歳以上	1	4,503	1,306	2,907	276	14	29.0%	64.6%	6.1%	0.3%
		2	2,125	174	1,808	132	11	8.2%	85.1%	6.2%	0.5%
		3	278	14	252	11	1	5.0%	90.6%	4.0%	0.4%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:あなたの歯の本数は20本以上ありますか

1. はい
2. いいえ
3. わからない

(4) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q2」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態とブラッシング時の出血の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、「かみにくい」群および「ほとんどかめない」群に比べて出血の割合は低かった。

すべての年齢階級で、「かみにくい」群の方が「ほとんどかめない」群よりも出血の割合が高かった。

それぞれの群で、0～2.4%の無回答があった。男性では、「ほとんどかめない」群で無回答の割合が高くなる傾向がみられた。

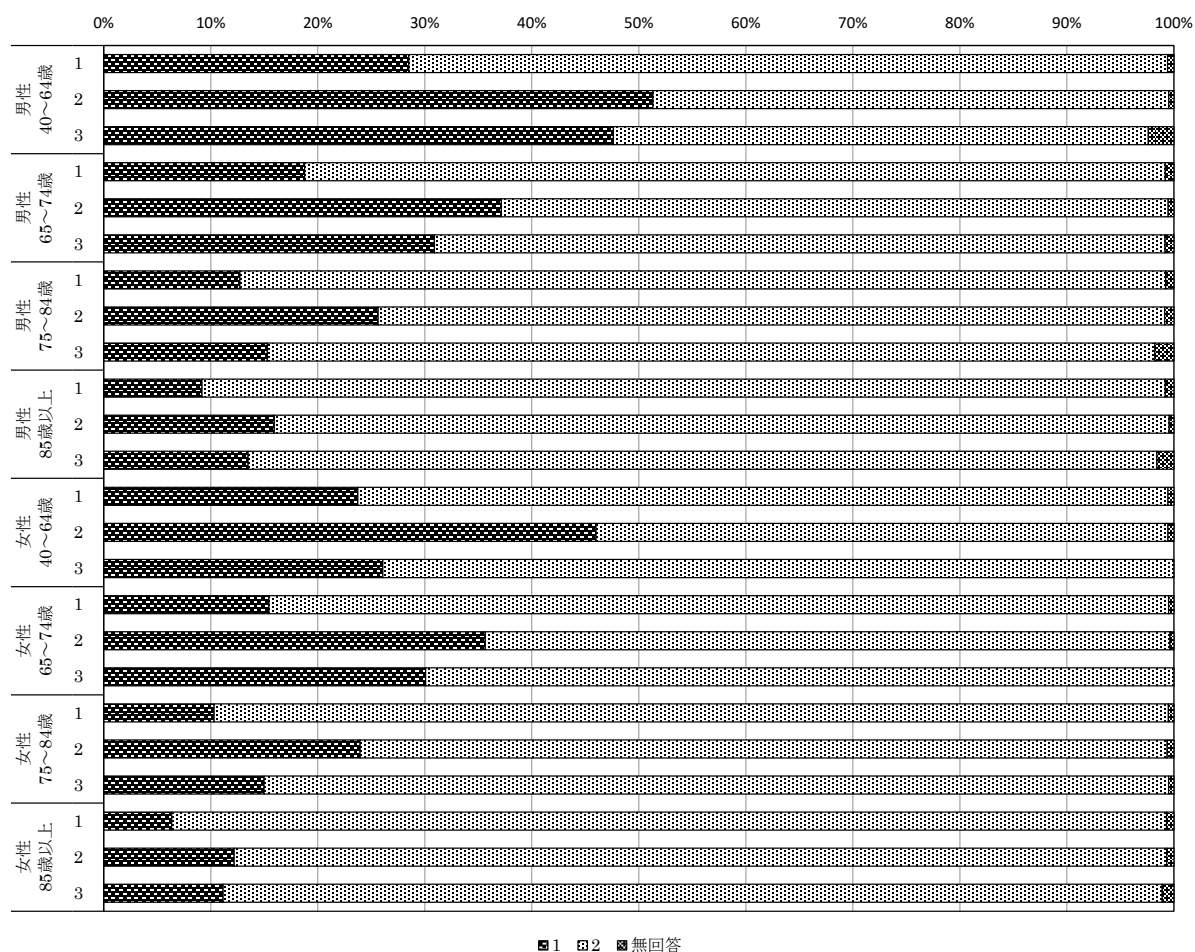
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q2:歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることもある

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q2 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,103	2,742	23	28.5%	70.9%	0.6%
		2	838	430	404	4	51.3%	48.2%	0.5%
		3	84	40	42	2	47.6%	50.0%	2.4%
	65～74歳	1	10,535	1,978	8,473	84	18.8%	80.4%	0.8%
		2	3,574	1,328	2,227	19	37.2%	62.3%	0.5%
		3	246	76	168	2	30.9%	68.3%	0.8%
	75～84歳	1	8,667	1,103	7,499	65	12.7%	86.5%	0.7%
		2	2,778	712	2,042	24	25.6%	73.5%	0.9%
		3	170	26	141	3	15.3%	82.9%	1.8%
	85歳以上	1	2,516	231	2,265	20	9.2%	90.0%	0.8%
		2	941	150	787	4	15.9%	83.6%	0.4%
		3	126	17	107	2	13.5%	84.9%	1.6%
女性	40～64歳	1	6,125	1,454	4,637	34	23.7%	75.7%	0.6%
		2	1,098	505	587	6	46.0%	53.5%	0.5%
		3	46	12	34	0	26.1%	73.9%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	2,591	14,110	82	15.4%	84.1%	0.5%
		2	4,247	1,514	2,718	15	35.6%	64.0%	0.4%
		3	123	37	86	0	30.1%	69.9%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	1,350	11,680	66	10.3%	89.2%	0.5%
		2	4,179	1,001	3,152	26	24.0%	75.4%	0.6%
		3	207	31	175	1	15.0%	84.5%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	286	4,186	31	6.4%	93.0%	0.7%
		2	2,125	259	1,852	14	12.2%	87.2%	0.7%
		3	278	31	244	3	11.2%	87.8%	1.1%



縦軸: 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸: 歯みがきの時に歯ぐきから血が出ることもある

1. はい
2. いいえ

(5) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q3」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と歯肉腫脹の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、「かみにくい」群および「ほとんどかめない」群に比べて歯肉腫脹のある割合は低かった。

すべての年齢階級で、「かみにくい」群の方が「ほとんどかめない」群よりも歯肉腫脹のある割合が高かった。

それぞれの群で、1%程度の無回答があった。

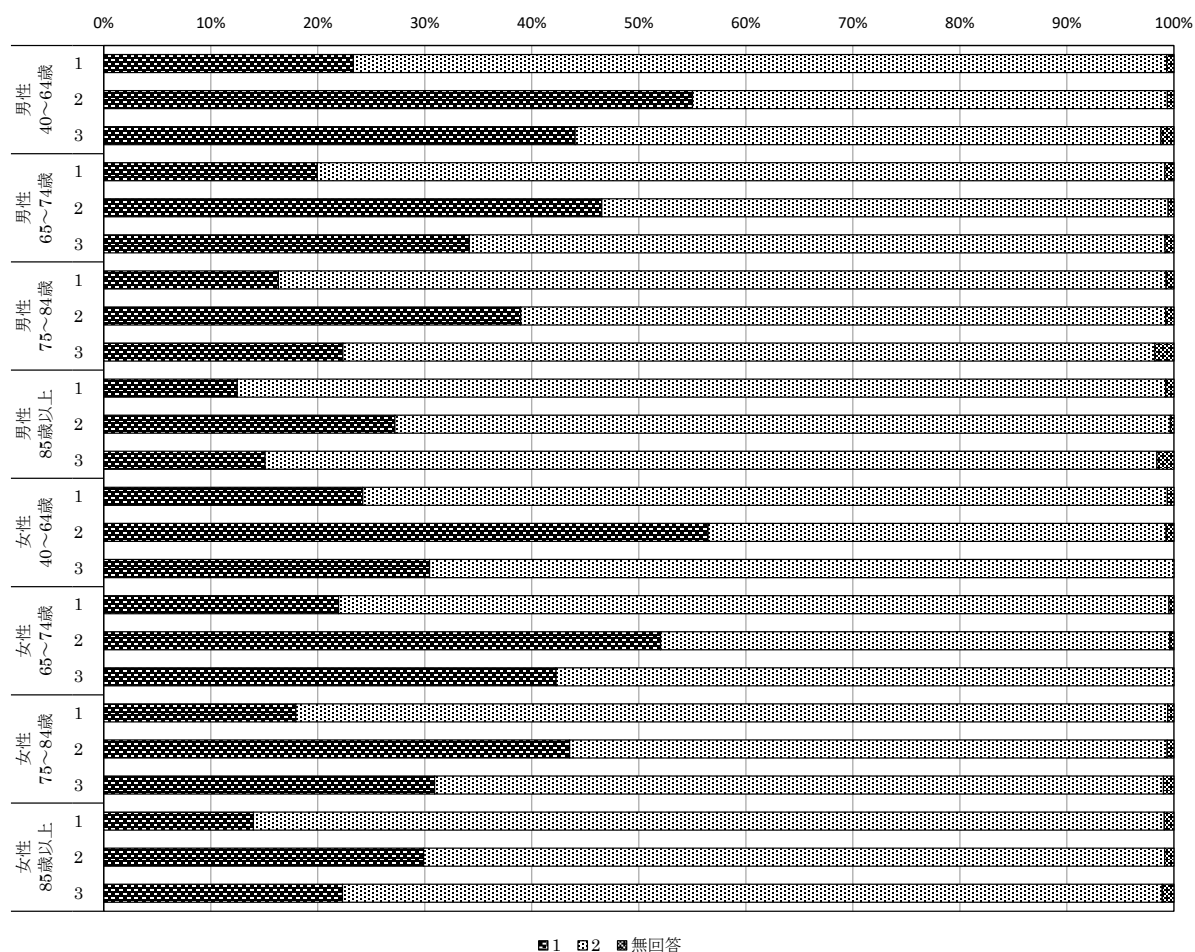
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q3:歯ぐきが腫れることがある

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q3 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	902	2,940	26	23.3%	76.0%	0.7%
		2	838	461	372	5	55.0%	44.4%	0.6%
		3	84	37	46	1	44.0%	54.8%	1.2%
	65～74歳	1	10,535	2,102	8,345	88	20.0%	79.2%	0.8%
		2	3,574	1,663	1,892	19	46.5%	52.9%	0.5%
		3	246	84	160	2	34.1%	65.0%	0.8%
	75～84歳	1	8,667	1,415	7,189	63	16.3%	82.9%	0.7%
		2	2,778	1,082	1,675	21	38.9%	60.3%	0.8%
		3	170	38	129	3	22.4%	75.9%	1.8%
	85歳以上	1	2,516	314	2,183	19	12.5%	86.8%	0.8%
		2	941	256	682	3	27.2%	72.5%	0.3%
		3	126	19	105	2	15.1%	83.3%	1.6%
女性	40～64歳	1	6,125	1,483	4,605	37	24.2%	75.2%	0.6%
		2	1,098	620	470	8	56.5%	42.8%	0.7%
		3	46	14	32	0	30.4%	69.6%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	3,683	13,024	76	21.9%	77.6%	0.5%
		2	4,247	2,210	2,021	16	52.0%	47.6%	0.4%
		3	123	52	71	0	42.3%	57.7%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	2,350	10,672	74	17.9%	81.5%	0.6%
		2	4,179	1,819	2,334	26	43.5%	55.9%	0.6%
		3	207	64	141	2	30.9%	68.1%	1.0%
	85歳以上	1	4,503	630	3,833	40	14.0%	85.1%	0.9%
		2	2,125	635	1,472	18	29.9%	69.3%	0.8%
		3	278	62	213	3	22.3%	76.6%	1.1%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：歯ぐきが腫れることがある

1. はい
2. いいえ

(6) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q4」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と動揺の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、「かみにくい」群および「ほとんどかめない」群に比べて動揺のある割合が低かった。

女性 65～74 歳と 85 歳以上の年齢階級以外では、「かみにくい」群の方が「ほとんどかめない」群よりも歯肉腫脹のある割合が高かった。

男性 40～64 歳、男性 75～84 歳の「ほとんどかめない」群で 3%程度の無回答があった。

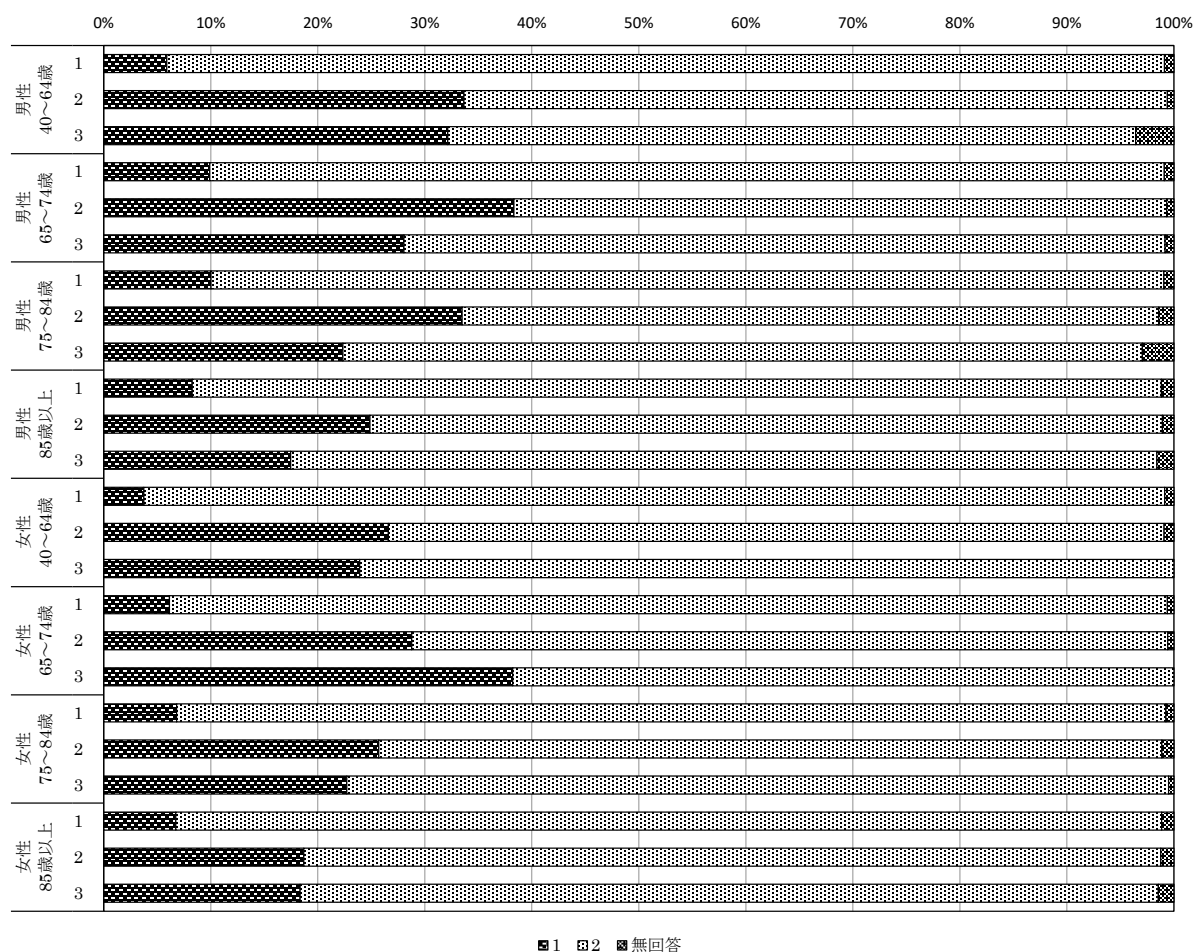
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q4:歯がぐらぐらする

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q4 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	228	3,606	34	5.9%	93.2%	0.9%
		2	838	282	551	5	33.7%	65.8%	0.6%
		3	84	27	54	3	32.1%	64.3%	3.6%
	65～74歳	1	10,535	1,043	9,398	94	9.9%	89.2%	0.9%
		2	3,574	1,370	2,180	24	38.3%	61.0%	0.7%
		3	246	69	175	2	28.0%	71.1%	0.8%
	75～84歳	1	8,667	868	7,718	81	10.0%	89.1%	0.9%
		2	2,778	930	1,809	39	33.5%	65.1%	1.4%
		3	170	38	127	5	22.4%	74.7%	2.9%
	85歳以上	1	2,516	208	2,279	29	8.3%	90.6%	1.2%
		2	941	234	697	10	24.9%	74.1%	1.1%
		3	126	22	102	2	17.5%	81.0%	1.6%
女性	40～64歳	1	6,125	229	5,844	52	3.7%	95.4%	0.8%
		2	1,098	292	796	10	26.6%	72.5%	0.9%
		3	46	11	35	0	23.9%	76.1%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	1,031	15,651	101	6.1%	93.3%	0.6%
		2	4,247	1,222	3,001	24	28.8%	70.7%	0.6%
		3	123	47	76	0	38.2%	61.8%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	891	12,107	98	6.8%	92.4%	0.7%
		2	4,179	1,074	3,058	47	25.7%	73.2%	1.1%
		3	207	47	159	1	22.7%	76.8%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	303	4,149	51	6.7%	92.1%	1.1%
		2	2,125	397	1,702	26	18.7%	80.1%	1.2%
		3	278	51	223	4	18.3%	80.2%	1.4%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:歯がぐらぐらする

1. はい
2. いいえ

(7) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q5」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と歯間清掃器具使用の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、歯間清掃器具を使用している割合が最も高く、「ほとんどかめない」群が最も低かった。

男性より女性の方が、歯間清掃器具を使用している割合が高かった。

男性 40～64 歳、男性 75～84 歳年齢階級のかめない群で 2.4%無回答があった。

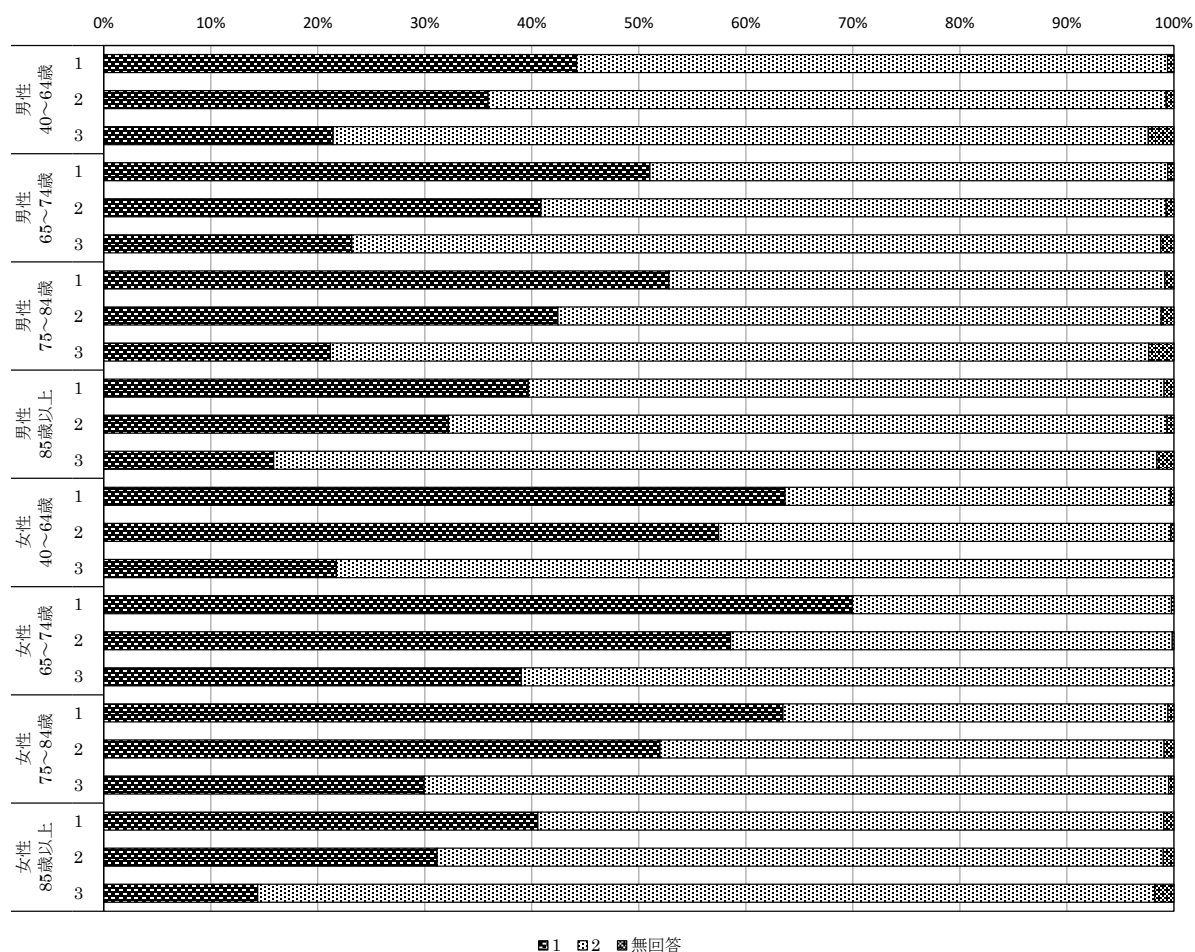
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q5:デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q5 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,709	2,136	23	44.2%	55.2%	0.6%
		2	838	301	531	6	35.9%	63.4%	0.7%
		3	84	18	64	2	21.4%	76.2%	2.4%
	65～74歳	1	10,535	5,377	5,099	59	51.0%	48.4%	0.6%
		2	3,574	1,460	2,088	26	40.9%	58.4%	0.7%
		3	246	57	186	3	23.2%	75.6%	1.2%
	75～84歳	1	8,667	4,578	4,016	73	52.8%	46.3%	0.8%
		2	2,778	1,179	1,566	33	42.4%	56.4%	1.2%
		3	170	36	130	4	21.2%	76.5%	2.4%
	85歳以上	1	2,516	998	1,495	23	39.7%	59.4%	0.9%
		2	941	303	632	6	32.2%	67.2%	0.6%
		3	126	20	104	2	15.9%	82.5%	1.6%
女性	40～64歳	1	6,125	3,900	2,206	19	63.7%	36.0%	0.3%
		2	1,098	631	464	3	57.5%	42.3%	0.3%
		3	46	10	36	0	21.7%	78.3%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	11,742	5,003	38	70.0%	29.8%	0.2%
		2	4,247	2,488	1,753	6	58.6%	41.3%	0.1%
		3	123	48	75	0	39.0%	61.0%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	8,313	4,711	72	63.5%	36.0%	0.5%
		2	4,179	2,172	1,969	38	52.0%	47.1%	0.9%
		3	207	62	144	1	30.0%	69.6%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	1,827	2,633	43	40.6%	58.5%	1.0%
		2	2,125	662	1,442	21	31.2%	67.9%	1.0%
		3	278	40	233	5	14.4%	83.8%	1.8%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：デンタルフロスや歯間ブラシを使って歯と歯のすき間もきれいにしている

1. はい
2. いいえ

(8) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q6」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態とフッ素入り歯みがき剤使用の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、フッ素入り歯みがき剤を使用している割合が最も高く、「ほとんどかめない」群が最も低かった。

男性より女性の方がフッ素入り歯みがき剤を使っている割合が高かった。

男性 40～64 歳、男性 75～84 歳年齢階級のかめない群で 3% 程度の無回答があった。

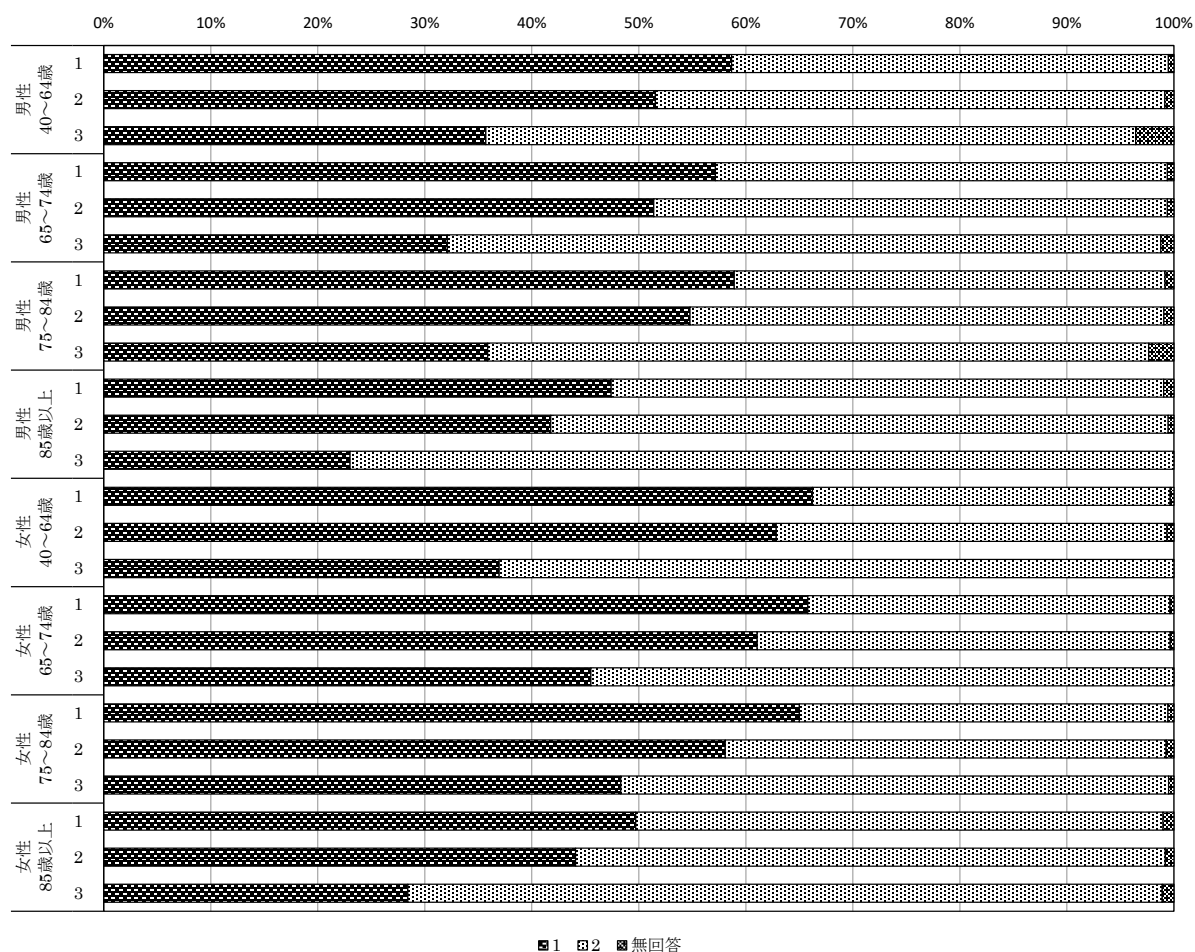
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q5:フッ素入り歯みがき剤を使っている

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q6 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	2,269	1,579	20	58.7%	40.8%	0.5%
		2	838	432	399	7	51.6%	47.6%	0.8%
		3	84	30	51	3	35.7%	60.7%	3.6%
	65～74歳	1	10,535	6,021	4,451	63	57.2%	42.2%	0.6%
		2	3,574	1,837	1,715	22	51.4%	48.0%	0.6%
		3	246	79	164	3	32.1%	66.7%	1.2%
	75～84歳	1	8,667	5,107	3,490	70	58.9%	40.3%	0.8%
		2	2,778	1,522	1,230	26	54.8%	44.3%	0.9%
		3	170	61	105	4	35.9%	61.8%	2.4%
	85歳以上	1	2,516	1,193	1,299	24	47.4%	51.6%	1.0%
		2	941	393	543	5	41.8%	57.7%	0.5%
		3	126	29	97	0	23.0%	77.0%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	4,056	2,048	21	66.2%	33.4%	0.3%
		2	1,098	690	401	7	62.8%	36.5%	0.6%
		3	46	17	29	0	37.0%	63.0%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	11,040	5,684	59	65.8%	33.9%	0.4%
		2	4,247	2,593	1,640	14	61.1%	38.6%	0.3%
		3	123	56	67	0	45.5%	54.5%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	8,513	4,512	71	65.0%	34.5%	0.5%
		2	4,179	2,427	1,722	30	58.1%	41.2%	0.7%
		3	207	100	106	1	48.3%	51.2%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	2,239	2,219	45	49.7%	49.3%	1.0%
		2	2,125	937	1,171	17	44.1%	55.1%	0.8%
		3	278	79	196	3	28.4%	70.5%	1.1%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：フッ素入り歯みがき剤を使っている

1. はい
2. いいえ

(9) 性別年齢階級別「標_Q13」と「香_Q7」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と年1回以上の定期的歯科検診の有無との関連を調べた。

男女とも全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群は、定期的歯科検診の受診率が最も高く、「ほとんどかめない」群が最も低かった。

「何でもかんで食べる事ができる」群は、40~62%と約半数が定期的に歯科受診していた。

男性より女性の方が定期的歯科検診の受診率が高かった。

男女とも65~84歳の年齢階級で定期的歯科検診の受診率が高かった。

男性40~64歳、男性75~84歳の「ほとんどかめない」群で1.2~2.4%の無回答があった。その他の年齢階級では1%以下だった。

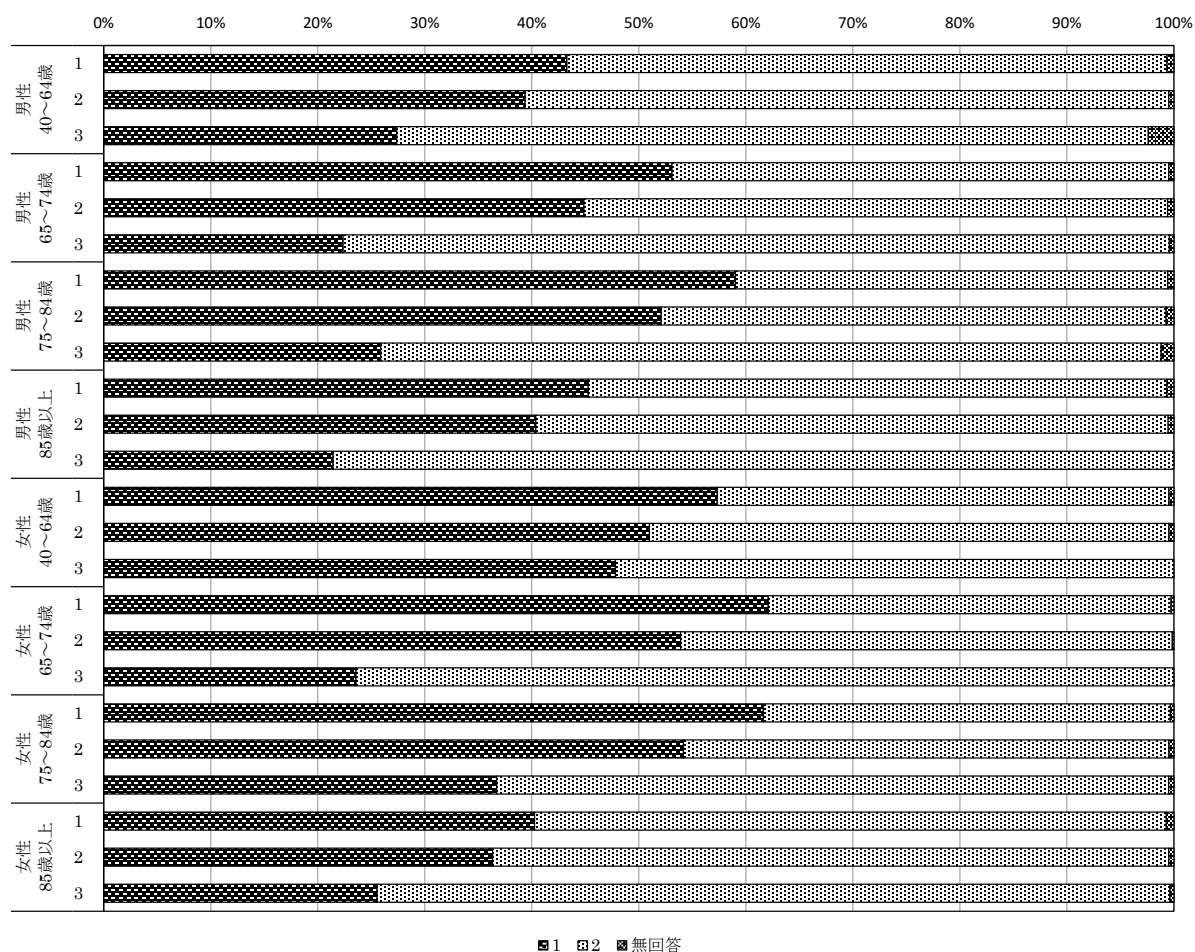
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

香_Q5:定期的(年に1回以上)に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	香_Q7 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40~64歳	1	3,868	1,674	2,169	25	43.3%	56.1%	0.6%
		2	838	330	504	4	39.4%	60.1%	0.5%
		3	84	23	59	2	27.4%	70.2%	2.4%
	65~74歳	1	10,535	5,594	4,892	49	53.1%	46.4%	0.5%
		2	3,574	1,604	1,949	21	44.9%	54.5%	0.6%
		3	246	55	190	1	22.4%	77.2%	0.4%
	75~84歳	1	8,667	5,116	3,502	49	59.0%	40.4%	0.6%
		2	2,778	1,447	1,311	20	52.1%	47.2%	0.7%
		3	170	44	124	2	25.9%	72.9%	1.2%
	85歳以上	1	2,516	1,139	1,361	16	45.3%	54.1%	0.6%
		2	941	380	556	5	40.4%	59.1%	0.5%
		3	126	27	99	0	21.4%	78.6%	0.0%
女性	40~64歳	1	6,125	3,511	2,586	28	57.3%	42.2%	0.5%
		2	1,098	560	533	5	51.0%	48.5%	0.5%
		3	46	22	24	0	47.8%	52.2%	0.0%
	65~74歳	1	16,783	10,420	6,319	44	62.1%	37.7%	0.3%
		2	4,247	2,289	1,952	6	53.9%	46.0%	0.1%
		3	123	29	94	0	23.6%	76.4%	0.0%
	75~84歳	1	13,096	8,073	4,982	41	61.6%	38.0%	0.3%
		2	4,179	2,264	1,896	19	54.2%	45.4%	0.5%
		3	207	76	130	1	36.7%	62.8%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	1,813	2,658	32	40.3%	59.0%	0.7%
		2	2,125	772	1,343	10	36.3%	63.2%	0.5%
		3	278	71	206	1	25.5%	74.1%	0.4%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:定期的(年に1回以上)に歯の検診や予防のために歯科医院を受診している

1. はい
2. いいえ

(10) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q8」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と喫煙の有無との関連について調べた。

喫煙率は、男性で多く、高齢になる程減少した。

男性は全年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群で喫煙率が最も低く、かめない程度が悪化する程喫煙率は上昇した。

女性は喫煙率が低く明確な差は無いものの、男性と同様の傾向を示した。

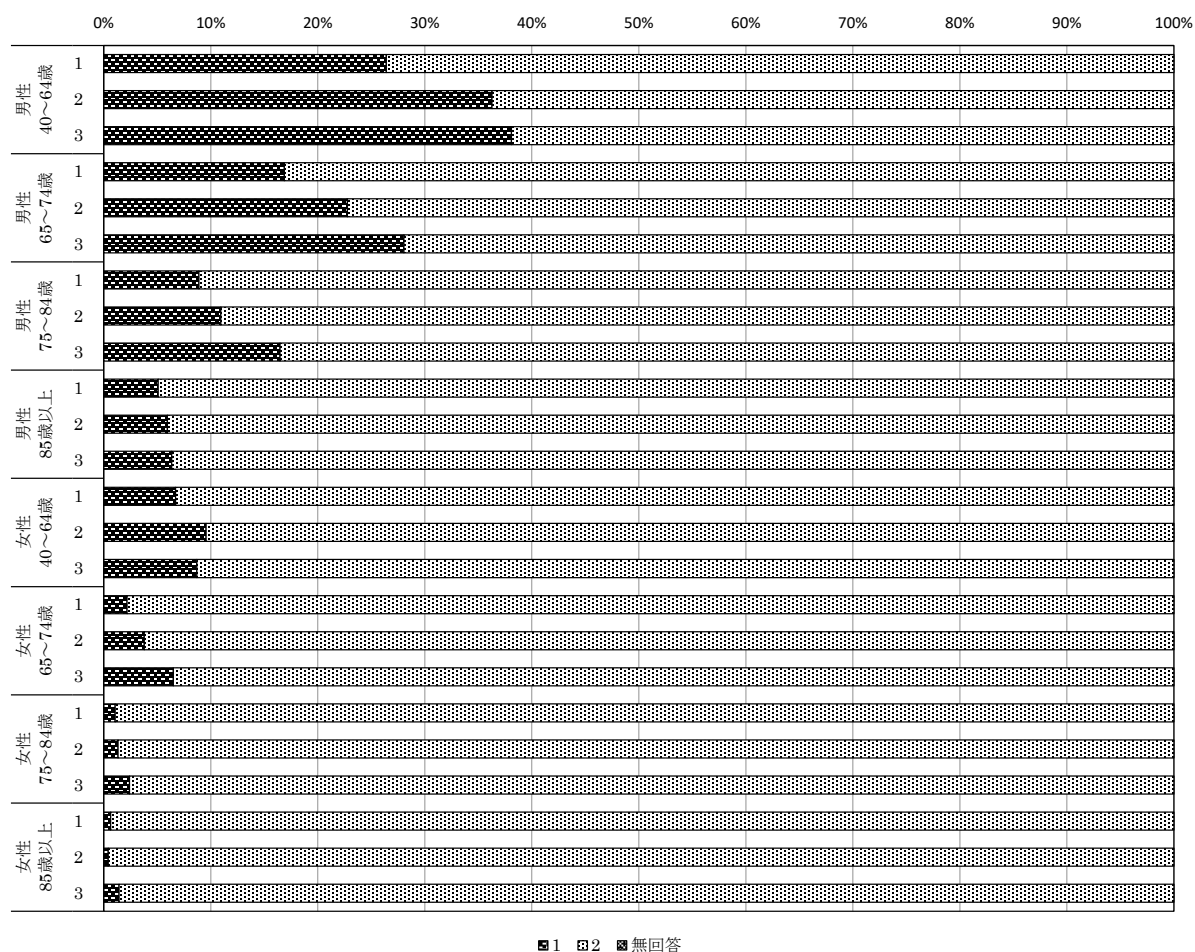
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q8:現在、たばこを習慣的に吸っている

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q8 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,021	2,847	0	26.4%	73.6%	0.0%
		2	838	304	534	0	36.3%	63.7%	0.0%
		3	84	32	52	0	38.1%	61.9%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	1,777	8,758	0	16.9%	83.1%	0.0%
		2	3,574	814	2,760	0	22.8%	77.2%	0.0%
		3	246	69	177	0	28.0%	72.0%	0.0%
	75～84歳	1	8,667	771	7,896	0	8.9%	91.1%	0.0%
		2	2,778	304	2,474	0	10.9%	89.1%	0.0%
		3	170	28	142	0	16.5%	83.5%	0.0%
	85歳以上	1	2,516	128	2,388	0	5.1%	94.9%	0.0%
		2	941	56	885	0	6.0%	94.0%	0.0%
		3	126	8	118	0	6.3%	93.7%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	411	5,714	0	6.7%	93.3%	0.0%
		2	1,098	105	993	0	9.6%	90.4%	0.0%
		3	46	4	42	0	8.7%	91.3%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	366	16,417	0	2.2%	97.8%	0.0%
		2	4,247	161	4,086	0	3.8%	96.2%	0.0%
		3	123	8	115	0	6.5%	93.5%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	140	12,956	0	1.1%	98.9%	0.0%
		2	4,179	56	4,123	0	1.3%	98.7%	0.0%
		3	207	5	202	0	2.4%	97.6%	0.0%
	85歳以上	1	4,503	29	4,474	0	0.6%	99.4%	0.0%
		2	2,125	9	2,116	0	0.4%	99.6%	0.0%
		3	278	4	274	0	1.4%	98.6%	0.0%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：現在、たばこを習慣的に吸っている

1. はい
2. いいえ

(11) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q14」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と食べる速度との関連について調べた。

食べる速度は「ふつう」の人が多い。また、年齢とともに食べる速度が「速い」人の割合が減少していた。男女とも全年齢階級で、「かみにくい」群で「速い」人の割合が低かった。

男女ともすべての年齢階級で、かめない程度が悪化する程「遅い」人の割合が高かった。

女性 40～64 歳の「ほとんどかめない」群で 2.2%の無回答があったが、それ以外は 1%以下だった。

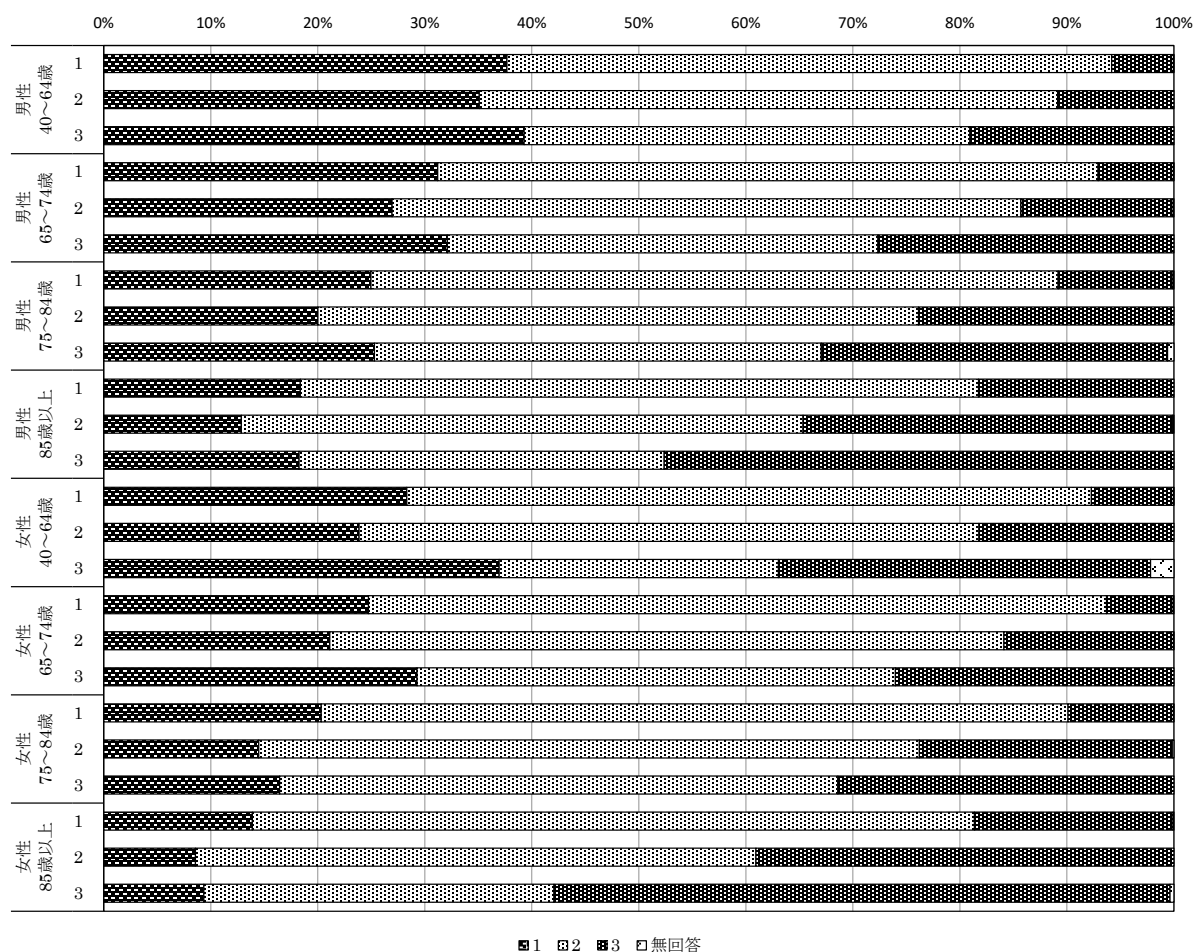
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q14:人と比較して食べる速度が速い

1. 速い
2. ふつう
3. 遅い

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q14 回答人数					割合			
			総数	1	2	3	無回答	1	2	3	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,457	2,186	224	1	37.7%	56.5%	5.8%	0.0%
		2	838	294	453	91	0	35.1%	54.1%	10.9%	0.0%
		3	84	33	35	16	0	39.3%	41.7%	19.0%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	3,287	6,503	742	3	31.2%	61.7%	7.0%	0.0%
		2	3,574	963	2,100	509	2	26.9%	58.8%	14.2%	0.1%
		3	246	79	99	68	0	32.1%	40.2%	27.6%	0.0%
	75～84歳	1	8,667	2,164	5,567	930	6	25.0%	64.2%	10.7%	0.1%
		2	2,778	556	1,559	663	0	20.0%	56.1%	23.9%	0.0%
		3	170	43	71	55	1	25.3%	41.8%	32.4%	0.6%
	85歳以上	1	2,516	462	1,595	459	0	18.4%	63.4%	18.2%	0.0%
		2	941	121	494	325	1	12.9%	52.5%	34.5%	0.1%
		3	126	23	43	60	0	18.3%	34.1%	47.6%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	1,734	3,919	470	2	28.3%	64.0%	7.7%	0.0%
		2	1,098	262	636	200	0	23.9%	57.9%	18.2%	0.0%
		3	46	17	12	16	1	37.0%	26.1%	34.8%	2.2%
	65～74歳	1	16,783	4,151	11,577	1,048	7	24.7%	69.0%	6.2%	0.0%
		2	4,247	897	2,676	673	1	21.1%	63.0%	15.8%	0.0%
		3	123	36	55	32	0	29.3%	44.7%	26.0%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	2,662	9,138	1,292	4	20.3%	69.8%	9.9%	0.0%
		2	4,179	605	2,580	988	6	14.5%	61.7%	23.6%	0.1%
		3	207	34	108	65	0	16.4%	52.2%	31.4%	0.0%
	85歳以上	1	4,503	625	3,039	836	3	13.9%	67.5%	18.6%	0.1%
		2	2,125	182	1,113	830	0	8.6%	52.4%	39.1%	0.0%
		3	278	26	91	160	1	9.4%	32.7%	57.6%	0.4%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：人と比較して食べる速度が速い

1. 速い
2. ふつう
3. 遅い

(12) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q15」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と就寝前食生活との関連を調べた。

男女ともすべての年齢階級で、「何でもかんで食べることができる」群で就寝前 2 時間以内に夕食をとる人の割合が低く、「かみにくい」群および「ほとんどかめない」群で高かった。

男性 75～84 歳の「ほとんどかめない」群で 1.2%の無回答があったが、それ以外は 1%以下だった。

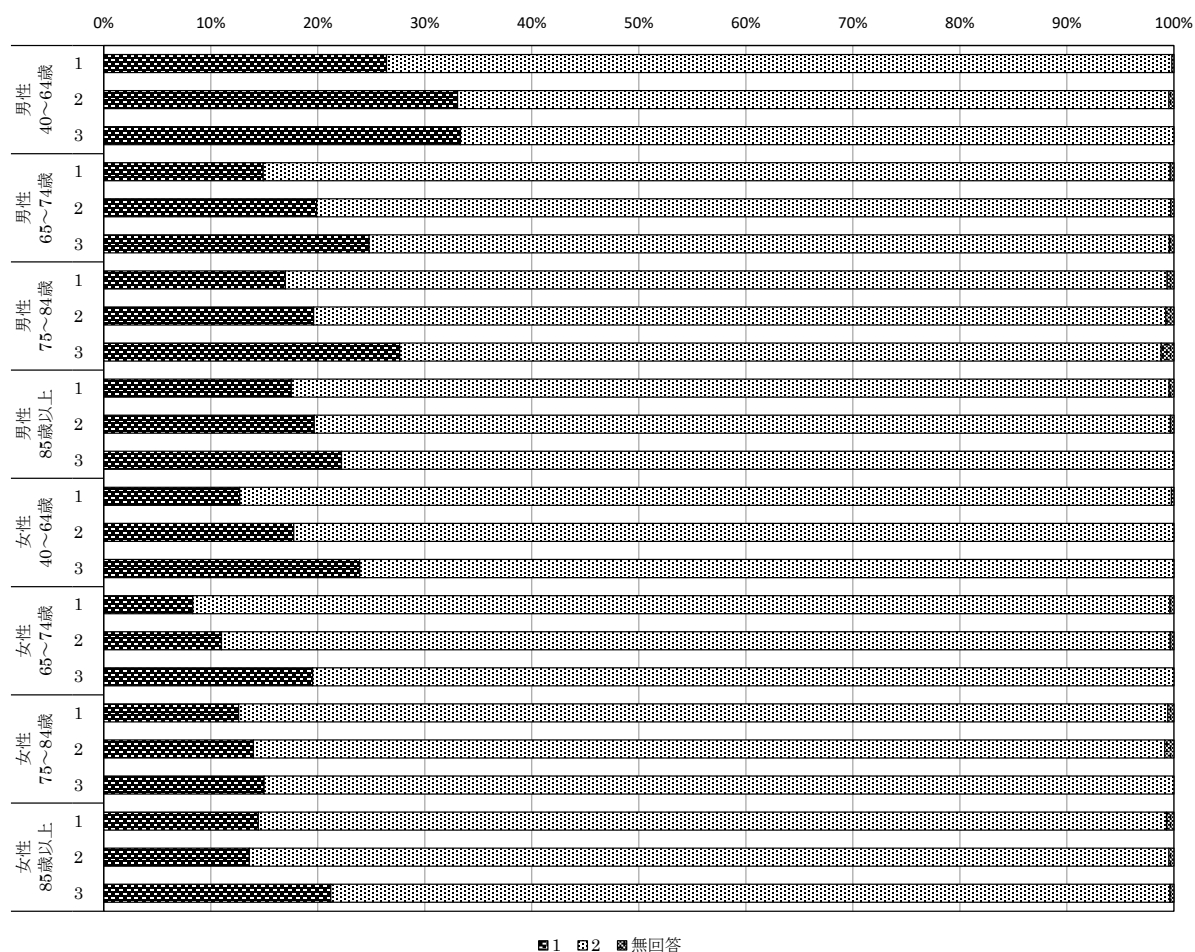
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q15:就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ある

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q15 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,022	2,839	7	26.4%	73.4%	0.2%
		2	838	277	557	4	33.1%	66.5%	0.5%
		3	84	28	56	0	33.3%	66.7%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	1,569	8,930	36	14.9%	84.8%	0.3%
		2	3,574	711	2,852	11	19.9%	79.8%	0.3%
		3	246	61	184	1	24.8%	74.8%	0.4%
	75～84歳	1	8,667	1,470	7,143	54	17.0%	82.4%	0.6%
		2	2,778	545	2,212	21	19.6%	79.6%	0.8%
		3	170	47	121	2	27.6%	71.2%	1.2%
	85歳以上	1	2,516	441	2,064	11	17.5%	82.0%	0.4%
		2	941	185	753	3	19.7%	80.0%	0.3%
		3	126	28	98	0	22.2%	77.8%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	778	5,333	14	12.7%	87.1%	0.2%
		2	1,098	195	903	0	17.8%	82.2%	0.0%
		3	46	11	35	0	23.9%	76.1%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	1,395	15,326	62	8.3%	91.3%	0.4%
		2	4,247	467	3,766	14	11.0%	88.7%	0.3%
		3	123	24	99	0	19.5%	80.5%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	1,650	11,372	74	12.6%	86.8%	0.6%
		2	4,179	584	3,559	36	14.0%	85.2%	0.9%
		3	207	31	176	0	15.0%	85.0%	0.0%
	85歳以上	1	4,503	650	3,822	31	14.4%	84.9%	0.7%
		2	2,125	289	1,826	10	13.6%	85.9%	0.5%
		3	278	59	218	1	21.2%	78.4%	0.4%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある

1. はい
2. いいえ

(13) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q16」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と間食や甘い飲み物の摂取状況との関連を調べた。

朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取する割合は「時々」が多い。

男性では、すべての年齢階級でかめない程度が悪化する程毎日間食や甘い飲み物を摂取する人の割合が増加していた。女性でも65歳以上の年齢階級で同様の傾向が認められた。

間食や甘いものをほとんど摂取しない人の割合は、全年齢階級で一定の傾向を認めなかった。

男性40～64歳の「ほとんどかめない」群で1.2%の無回答があったが、それ以外は1%以下だった。

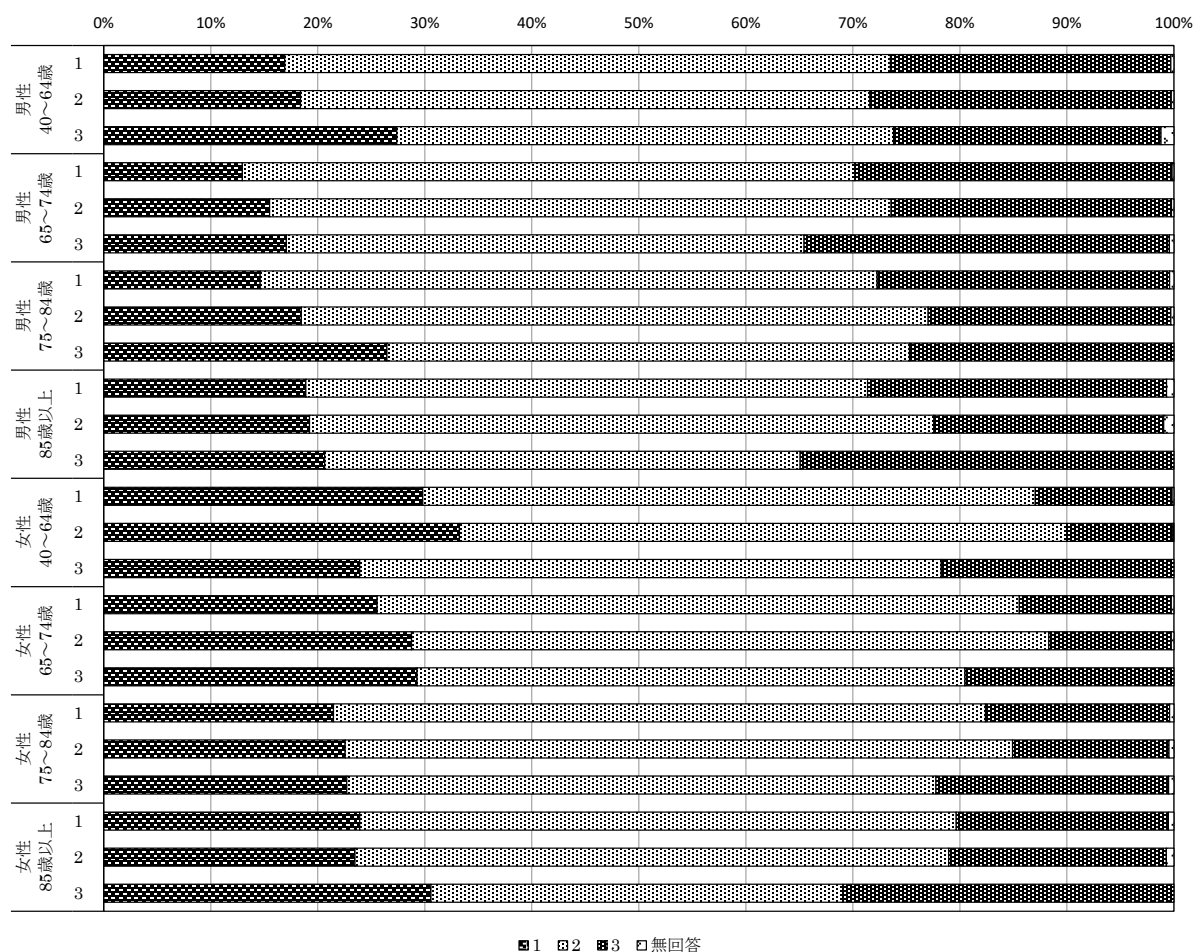
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q16:朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか

1. 毎日
2. 時々
3. ほとんど摂取しない

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q16 回答人数					割合			
			総数	1	2	3	無回答	1	2	3	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	654	2,190	1,013	11	16.9%	56.6%	26.2%	0.3%
		2	838	154	446	236	2	18.4%	53.2%	28.2%	0.2%
		3	84	23	39	21	1	27.4%	46.4%	25.0%	1.2%
	65～74歳	1	10,535	1,365	6,030	3,122	18	13.0%	57.2%	29.6%	0.2%
		2	3,574	554	2,076	936	8	15.5%	58.1%	26.2%	0.2%
		3	246	42	119	84	1	17.1%	48.4%	34.1%	0.4%
	75～84歳	1	8,667	1,266	4,999	2,368	34	14.6%	57.7%	27.3%	0.4%
		2	2,778	513	1,627	630	8	18.5%	58.6%	22.7%	0.3%
		3	170	45	83	42	0	26.5%	48.8%	24.7%	0.0%
	85歳以上	1	2,516	475	1,321	703	17	18.9%	52.5%	27.9%	0.7%
		2	941	181	549	202	9	19.2%	58.3%	21.5%	1.0%
		3	126	26	56	44	0	20.6%	44.4%	34.9%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	1,826	3,506	783	10	29.8%	57.2%	12.8%	0.2%
		2	1,098	365	623	109	1	33.2%	56.7%	9.9%	0.1%
		3	46	11	25	10	0	23.9%	54.3%	21.7%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	4,288	10,072	2,382	41	25.5%	60.0%	14.2%	0.2%
		2	4,247	1,221	2,530	486	10	28.7%	59.6%	11.4%	0.2%
		3	123	36	63	24	0	29.3%	51.2%	19.5%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	2,811	7,979	2,254	52	21.5%	60.9%	17.2%	0.4%
		2	4,179	943	2,606	611	19	22.6%	62.4%	14.6%	0.5%
		3	207	47	114	45	1	22.7%	55.1%	21.7%	0.5%
	85歳以上	1	4,503	1,077	2,510	893	23	23.9%	55.7%	19.8%	0.5%
		2	2,125	499	1,179	432	15	23.5%	55.5%	20.3%	0.7%
		3	278	85	107	86	0	30.6%	38.5%	30.9%	0.0%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか

1. 毎日
2. 時々
3. ほとんど摂取しない

(14) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q17」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と朝食の摂取状況との関連を調べた。

男性の全年齢階級と女性の 65～84 歳の年齢階級で、かめない程度が悪化する程「朝食を抜くことが週に 3 回以上ある」人の割合が増加していた。

65～74 歳の「ほとんどかめない」群で 1.6%の無回答、75～84 歳の「ほとんどかめない」群で 2.9%の無回答があったが、それ以外は 1%以下だった。

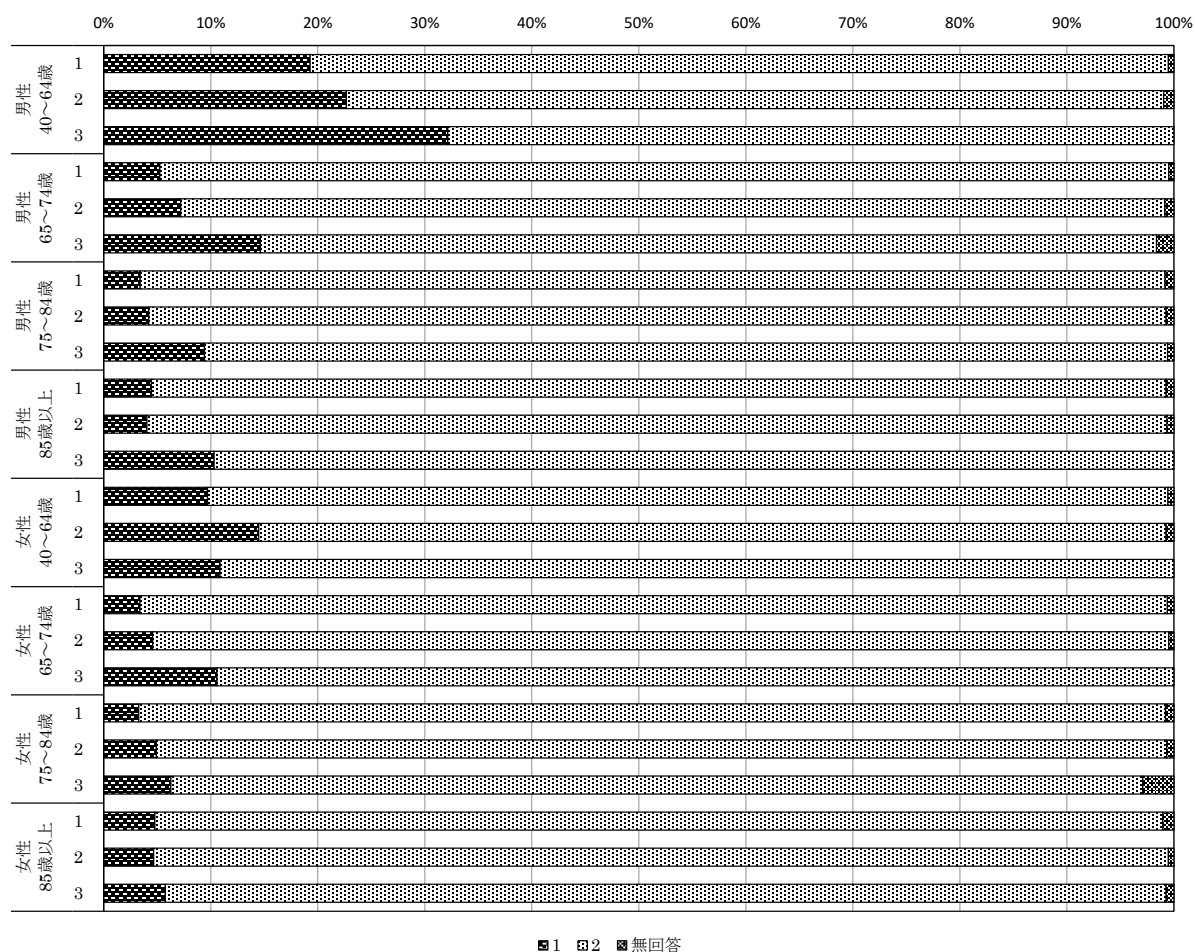
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q17:朝食を抜くことが週に 3 回以上ある

1. はい
2. いいえ

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q17 回答人数				割合		
			総数	1	2	無回答	1	2	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	746	3,102	20	19.3%	80.2%	0.5%
		2	838	190	640	8	22.7%	76.4%	1.0%
		3	84	27	57	0	32.1%	67.9%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	552	9,933	50	5.2%	94.3%	0.5%
		2	3,574	257	3,287	30	7.2%	92.0%	0.8%
		3	246	36	206	4	14.6%	83.7%	1.6%
	75～84歳	1	8,667	294	8,303	70	3.4%	95.8%	0.8%
		2	2,778	117	2,641	20	4.2%	95.1%	0.7%
		3	170	16	153	1	9.4%	90.0%	0.6%
	85歳以上	1	2,516	112	2,386	18	4.5%	94.8%	0.7%
		2	941	38	897	6	4.0%	95.3%	0.6%
		3	126	13	113	0	10.3%	89.7%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	594	5,497	34	9.7%	89.7%	0.6%
		2	1,098	159	931	8	14.5%	84.8%	0.7%
		3	46	5	41	0	10.9%	89.1%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	567	16,114	102	3.4%	96.0%	0.6%
		2	4,247	194	4,033	20	4.6%	95.0%	0.5%
		3	123	13	110	0	10.6%	89.4%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	428	12,567	101	3.3%	96.0%	0.8%
		2	4,179	205	3,946	28	4.9%	94.4%	0.7%
		3	207	13	188	6	6.3%	90.8%	2.9%
	85歳以上	1	4,503	215	4,242	46	4.8%	94.2%	1.0%
		2	2,125	99	2,015	11	4.7%	94.8%	0.5%
		3	278	16	260	2	5.8%	93.5%	0.7%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：朝食を抜くことが週に3回以上ある

1. はい
2. いいえ

(15) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q18」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と飲酒頻度との関連を調べた。

女性はお酒を飲まない割合が高く、高齢になるほど飲酒頻度は減少していた。

男女とも「ほとんどかめない」群で、ほとんど飲まない人の割合が増加していた。

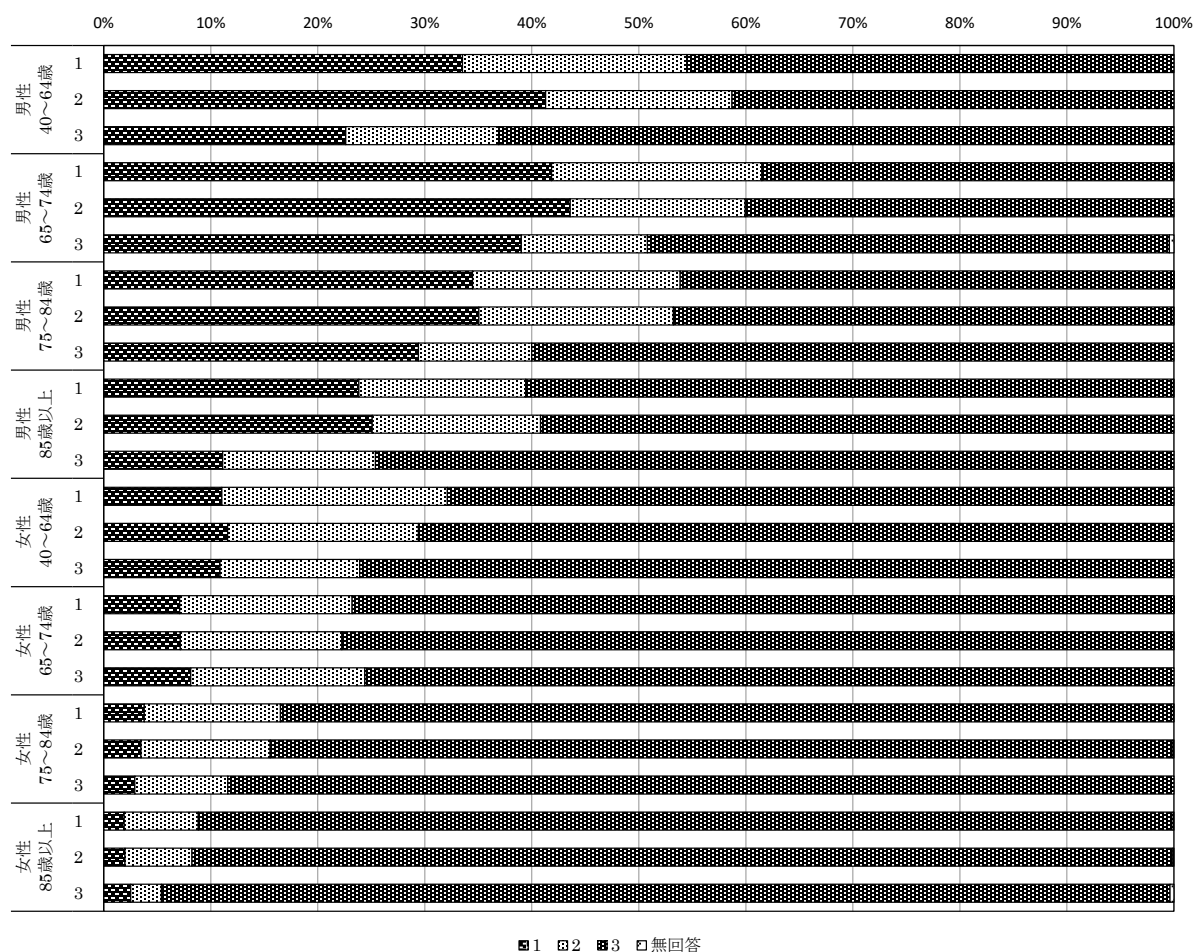
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q18:お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度

1. 毎日
2. 時々
3. ほとんど飲まない(飲めない)

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q18 回答人数					割合			
			総数	1	2	3	無回答	1	2	3	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,297	810	1,761	0	33.5%	20.9%	45.5%	0.0%
		2	838	346	146	346	0	41.3%	17.4%	41.3%	0.0%
		3	84	19	12	53	0	22.6%	14.3%	63.1%	0.0%
	65～74歳	1	10,535	4,409	2,070	4,052	4	41.9%	19.6%	38.5%	0.0%
		2	3,574	1,558	585	1,431	0	43.6%	16.4%	40.0%	0.0%
		3	246	96	29	120	1	39.0%	11.8%	48.8%	0.4%
	75～84歳	1	8,667	2,987	1,681	3,998	1	34.5%	19.4%	46.1%	0.0%
		2	2,778	974	505	1,298	1	35.1%	18.2%	46.7%	0.0%
		3	170	50	18	102	0	29.4%	10.6%	60.0%	0.0%
	85歳以上	1	2,516	600	392	1,523	1	23.8%	15.6%	60.5%	0.0%
		2	941	236	148	557	0	25.1%	15.7%	59.2%	0.0%
		3	126	14	18	94	0	11.1%	14.3%	74.6%	0.0%
女性	40～64歳	1	6,125	676	1,290	4,159	0	11.0%	21.1%	67.9%	0.0%
		2	1,098	127	196	775	0	11.6%	17.9%	70.6%	0.0%
		3	46	5	6	35	0	10.9%	13.0%	76.1%	0.0%
	65～74歳	1	16,783	1,190	2,705	12,885	3	7.1%	16.1%	76.8%	0.0%
		2	4,247	304	641	3,301	1	7.2%	15.1%	77.7%	0.0%
		3	123	10	20	93	0	8.1%	16.3%	75.6%	0.0%
	75～84歳	1	13,096	495	1,667	10,931	3	3.8%	12.7%	83.5%	0.0%
		2	4,179	145	505	3,526	3	3.5%	12.1%	84.4%	0.1%
		3	207	6	18	183	0	2.9%	8.7%	88.4%	0.0%
	85歳以上	1	4,503	86	312	4,103	2	1.9%	6.9%	91.1%	0.0%
		2	2,125	42	133	1,948	2	2.0%	6.3%	91.7%	0.1%
		3	278	7	8	262	1	2.5%	2.9%	94.2%	0.4%



縦軸:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸:お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度

1. 毎日
2. 時々
3. ほとんど飲まない(飲めない)

(16) 性別年齢階級別「標_Q13」と「標_Q19」の回答状況

食事をかんで食べる時の状態と飲酒量との関連を調べたが、無回答者が多く、分析は困難と判断した。設問の選択肢設定に問題があり、飲酒しない人がどの選択肢に該当するか選びにくかったのではないと思われる。

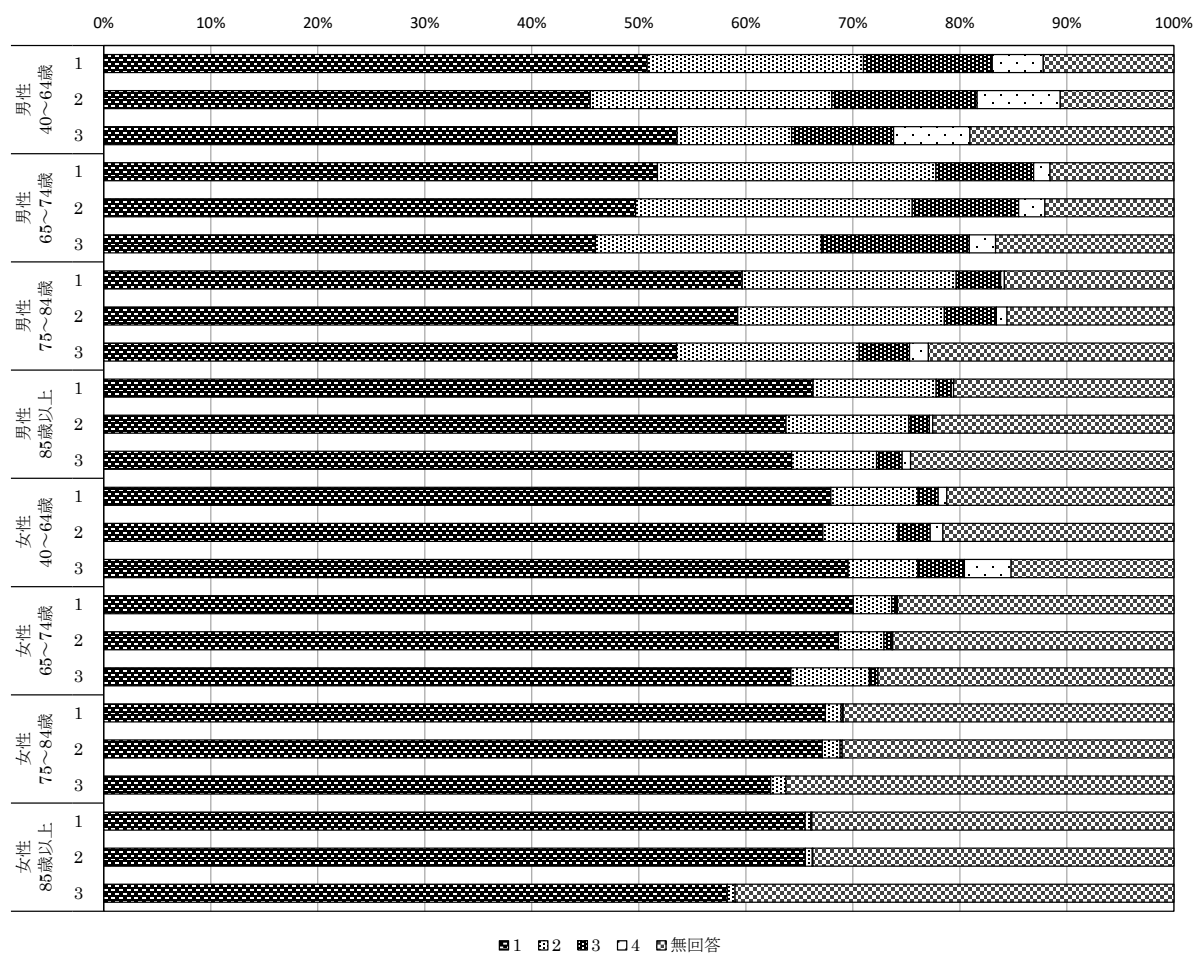
標_Q13:食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

標_Q19:飲酒日の1日当たりの飲酒量

1. 1 合未満
2. 1～2 合未満
3. 2～3 合未満
4. 3 合以上

性別	年齢4区分	標_Q13 回答	標_Q19 回答人数						割合				
			総数	1	2	3	4	無回答	1	2	3	4	無回答
男性	40～64歳	1	3,868	1,964	782	466	184	472	50.8%	20.2%	12.0%	4.8%	12.2%
		2	838	381	189	114	65	89	45.5%	22.6%	13.6%	7.8%	10.6%
		3	84	45	9	8	6	16	53.6%	10.7%	9.5%	7.1%	19.0%
	65～74歳	1	10,535	5,451	2,741	962	162	1,219	51.7%	26.0%	9.1%	1.5%	11.6%
		2	3,574	1,776	924	356	87	431	49.7%	25.9%	10.0%	2.4%	12.1%
		3	246	113	52	34	6	41	45.9%	21.1%	13.8%	2.4%	16.7%
	75～84歳	1	8,667	5,171	1,734	359	31	1,372	59.7%	20.0%	4.1%	0.4%	15.8%
		2	2,778	1,646	536	135	28	433	59.3%	19.3%	4.9%	1.0%	15.6%
		3	170	91	29	8	3	39	53.5%	17.1%	4.7%	1.8%	22.9%
	85歳以上	1	2,516	1,668	289	36	5	518	66.3%	11.5%	1.4%	0.2%	20.6%
		2	941	600	108	18	3	212	63.8%	11.5%	1.9%	0.3%	22.5%
		3	126	81	10	3	1	31	64.3%	7.9%	2.4%	0.8%	24.6%
女性	40～64歳	1	6,125	4,162	499	115	49	1,300	68.0%	8.1%	1.9%	0.8%	21.2%
		2	1,098	738	77	33	13	237	67.2%	7.0%	3.0%	1.2%	21.6%
		3	46	32	3	2	2	7	69.6%	6.5%	4.3%	4.3%	15.2%
	65～74歳	1	16,783	11,755	604	76	12	4,336	70.0%	3.6%	0.5%	0.1%	25.8%
		2	4,247	2,916	180	32	3	1,116	68.7%	4.2%	0.8%	0.1%	26.3%
		3	123	79	9	1	0	34	64.2%	7.3%	0.8%	0.0%	27.6%
	75～84歳	1	13,096	8,830	193	24	3	4,046	67.4%	1.5%	0.2%	0.0%	30.9%
		2	4,179	2,806	70	8	0	1,295	67.1%	1.7%	0.2%	0.0%	31.0%
		3	207	129	3	0	0	75	62.3%	1.4%	0.0%	0.0%	36.2%
	85歳以上	1	4,503	2,951	24	5	0	1,523	65.5%	0.5%	0.1%	0.0%	33.8%
		2	2,125	1,393	14	1	0	717	65.6%	0.7%	0.0%	0.0%	33.7%
		3	278	162	2	0	0	114	58.3%	0.7%	0.0%	0.0%	41.0%



縦軸：食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか

1. 何でもかんで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
3. ほとんどかめない

横軸：飲酒日の1日当たりの飲酒量

1. 1合未満 2. 1～2合未満 3. 2～3合未満 4. 3合以上

まとめ・考察

平成 30 年度から特定健診問診票の質問項目が見直され、新たに口腔に関する項目「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか」が追加された。これまで香川県独自の質問項目では、何でもかんで食べられるかどうかの 2 択だったのに対し、①何でもかんで食べられる、②かみにくい、③ほとんどかめない、の 3 択になったことから、この質問項目の回答状況と医療費等の状況及び他の歯科質問項目や食生活に関する質問項目との関連について分析した。

1. 食事をかんで食べる時の状態の回答状況について

何でもかんで食べることでできる割合は、男女共に若い年齢群が約70%と最も高く、高齢になるにつれて低下していた。特に女性の方が大きく低下する傾向を認め、85歳以上の年齢群で60%以下だった。この結果は、2択だった時の調査結果(平成27年度調査で40~64歳89.9%、65~74歳86.6%、75歳以上78.8%)と比較すると低くなっており、これまで何でも食べられると答えていた人の中にも、かみにくく感じていた人が一定数含まれていたことが分かった。

ただ、どの年齢層にも15%程度の無回答層(平成22~27年度報告では2%以下)が存在しており、選択肢の設定に課題が残る。また、どのような人たちで無回答が多かったのか更なる分析が必要と思われる。

2. 1人あたり1年間あたり日数、医療費との関係について

医科日数は、かめない人程、高齢になる程多かった。医科診療費及び調剤費は、すべての年齢階級でかめない人程、高齢になる程高く、男性の方が女性よりも高くなる傾向がみられた。このことは、何でもかめる事が各世代で健康のバロメーターになっている事を示しており、歯と口の健康は健康寿命の延伸に寄与する事が示唆された。

歯科に関しては、かめない人の方が日数、医療費共に多くなる傾向を示したが、かみにくい人とほとんどかめない人の間で差がなく、年齢間でも差がなかった。このことは、歯科医療を必要とする人が潜在的に多いことを示しており、切れ目のない健診事業や広報活動など、受診行動に結びつくような施策が望まれる。

3. 歯の本数、歯周病症状との関係について

すべての年齢層で、何でもかんで食べることができる人は、20本以上歯がある人の割合が最も高く、かめなくなる程その割合は著明に減少していた。食事をかんで食べる時の状態と現在歯数は密接に関連していることを改めて確認できた。また、20本以上歯があるか分からない人が、64歳以下世代のかみにくいと訴える人で高い傾向を示した。現在歯数が把握できていないことを口腔内への関心度の低さと見るならば、青年期、壮年期の歯科保健事業への課題と捉えることができるのではないと思われる。若い社会人世代に対しての歯科健診事業の整備が望まれる。

何でもかんで食べることができる人は、歯みがき時の出血、歯肉腫脹、歯の動揺の歯周病症状を訴える割合が最も低く、かみにくいと答えた人で最も高かった。生涯にわたって咀嚼機能を維持するためには歯周病予防が重要であることが改めて確認できた。また、かみにくい人よりもほとんどかめない人の方が、咀嚼機能が落ちているにもかかわらず歯周病症状を訴える割合が低くなる傾向を認めたが、これは、歯周病が進行することで無歯顎者の割合が増えることが原因になっていると思われる。

4. 歯間清掃器具、フッ素入り歯みがき剤、定期歯科検診との関係について

何でもかんで食べることができる人程歯間清掃器具やフッ素入り歯みがき剤を使用している割合が高く、年1回以上定期的に歯科検診を受けている人の割合も高かった。これらの口腔衛生的生活習慣が、咀嚼機能の維持に効果的であることが確認できた。

また、男性より女性の方が使用している割合が高く、口腔衛生に関する予防意識は女性の方が高いことがわかった。医科受診日数や医科診療費が男性よりも女性の方が低かったことと関連している可能性がある。今後も同様の調査を継続することで、同じ傾向があることを確認したい。

5. 喫煙との関係について

喫煙率は、かめない程度が悪化するほど高かったことから、喫煙は咀嚼機能の維持に影響を与えている事が分かった。喫煙は歯周病のリスク因子であることから、歯周病による歯の喪失等の影響を受けての結果だったと思われる。特に若い世代の男性への禁煙指導は、生涯にわたって咀嚼機能を維持するために重要である。

6. 食べる速度との関係について

食べる速度は「ふつう」と回答した人が多かった。咀嚼機能が低下すると食べる速度は遅くなることが確認できた。高齢になる程食べる速度は遅くなっており、高齢者の咀嚼機能低下の課題が現れた結果となった。

一方、若い世代では咀嚼機能の程度にかかわらず食べる速度が「速い」と答える人が多かった。メタボリックシンドローム予防の観点から「何でもかんで食べることができる」人はゆっくりとかんで食べることが大切と思われる。

7. 規則的な食生活習慣との関係について

就寝前の2時間以内の飲食や、毎日間食や甘い飲み物を摂取、朝食を抜くことは、咀嚼機能の低下と関連を認めた。

規則的な食生活習慣は咀嚼機能の維持に重要であることが確認できた。

8. 飲酒との関係について

女性は飲酒の割合が低く、特に高齢になる程低下していた。

男女とも「ほとんどかめない」と飲酒率は低下した。咀嚼機能の低下は食生活に偏りがでるため飲酒習慣にも影響がでているのではないかと思われる。

令和2年度香川県8020運動推進特別事業
(香川県歯科医師会委託事業)

令和2年度
香川県
歯の健康と医療費に関する実態調査報告書

令和3年3月発行

公益社団法人 香川県歯科医師会
会長 豊嶋 健治

〒760-0020 香川県高松市錦町2丁目8番38号
TEL：087-851-4965 FAX：087-822-4948
Eメール：jimu@kashi.or.jp HP：http://www.kashi.or.jp

